

授業科目	臨床栄養学 Clinical Nutrition			担当教員	岡本 智子		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	疾患・病態別の栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング・アセスメント、栄養ケア・計画立案、実施、評価、フィードバック）の方法を学修する。また個々の患者の病態、病状、摂取能力にあわせた個別の栄養管理をするために患者の QOL を損なわない栄養補給方法や具体的な食事・栄養のサポート、また患者が実施可能な食事療法について理解する。						
到達目標	1. 栄養障害、肥満と代謝疾患、消化器系疾患、循環器疾患、呼吸器系疾患、血液系疾患、摂食障害関連疾患について理解し、栄養管理の知識と技術を修得している。 2. 患者の実施可能な食事療法の提案ができるようになる。						
関連科目	形態機能学Ⅱ 栄養代謝学						
テキスト	Visual 栄養学テキストシリーズ 臨床栄養学Ⅰ 総論 中山書店 編集 本田佳子 Visual 栄養学テキストシリーズ 臨床栄養学Ⅰ 各論 中山書店 編集 本田佳子						
参考書	なし						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	目標の到達状況を試験 80%、課題レポート 15%、小テスト 5%により評価する				
	レポート	15					
	小テスト	5					
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートは翌週返却する際にコメントを付す						
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス（授業内容進め方、事前事後学習の仕方など）	疾患・病態別及び栄養管理の概念と流れを学ぶ				シラバス、教科書を確認して授業の準備をする（2時間）。 事後：授業の内容をまとめ、復習する（2時間）	
2	栄養障害と栄養評価（低栄養）	栄養障害とは何か 栄養スクリーニングとアセスメントについて				事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）	
3	疾患・病態別栄養管理（1）	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 消化器疾患（口腔内・食道・胃・十二指腸クローン病、潰瘍性大腸炎、便性のコントロール等）				事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）	
4	疾患・病態別栄養管理（2）	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント（慢性肝炎・脂肪肝・肝硬変・胆嚢炎・慢性膵炎等）				事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）	
5	疾患・病態別栄養管理（3）	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（肥満と肥満症・糖尿病等）				事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	疾患・病態別栄養管理 (4)	循環器疾患の栄養ケア・マネジメント(高血圧・虚血性心疾患・心不全・慢性腎不全・糖尿病腎症等)	事前:テキスト・配布資料により予習する2時間。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
7	疾患・病態別栄養管理 (5)	呼吸器疾患の栄養ケア・マネジメント(慢性閉塞性肺疾患・慢性呼吸不全等)	事前:テキスト・配布資料により予習する2時間。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
8	疾患・病態別栄養管理 (6)	血液疾患・摂食障害関連の栄養ケア・マネジメント(貧血・その他の貧血、神経性やせ症・過食症等)	事前:テキスト・配布資料により予習する2時間。 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)

授業科目	疫学 Epidemiology			担当教員	濱岡 直裕、小林 宣道		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	選択 保健師国家試験受験資格取得希望者：必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		○	◎	○	
授業目的	疫学は、人間集団における疾病および健康現象の発生状況を把握し、それらに影響を及ぼしている要因や条件を総合的に探る学問である。この基本的考え方や方法を理解し、健康問題について論理的な思考で原因を追究する手法を身につけ、疫学の考え方が保健対策や公衆衛生看護活動の基礎となっていることを理解する。						
到達目標	1. 疫学の概念・考え方、および疫学における各種の指標について理解する。 2. 疫学の研究方法について、特徴と意義、および各方法の差異を理解する。 3. スクリーニングについて、特性と意義を理解する。 4. 保健対策・公衆衛生看護活動において疫学の考え方が実践されていることを理解する。						
関連科目	公衆衛生看護学の各科目に関連する。						
テキスト	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第3版）」（医歯薬出版）						
参考書	適宜紹介する						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点				
	試験	60	試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況进行评估する。 小テストは3回実施する（小林：1回・評価割合10%、濱岡：2回・評価割合20%）。 最終試験は最終回終了翌週に実施する。				
	レポート						
	小テスト	30					
	提出物						
その他	10						
履修上の留意事項	・ 授業に集中し、復習により知識を身につけ、問題演習を通じて知識をアウトプットする能力を養うこと。 ・ 配付資料のみでなく、テキストを3回読み込んで、体系的に復習を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法	小テストの出題内容は講義中に解説する。						
実務経験を活かした教育内容							
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 （濱岡）	疫学の考え方	・ 疫学の概念を理解する。 ・ 疫学における「因果関係」とは何かを理解する。				事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。	
2 （小林）	疫学で用いられる指標（1）	・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 比、率、割合。有病率と罹患率と累積罹患割合。				事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。	
3 （小林）	疫学で用いられる指標（2）	・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 相対危険と寄与危険。				事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。	
4 （小林）	疫学で用いられる指標（3）	・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 死亡率、年齢調整死亡率、致命率。				事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。	
5 （小林）	疫学指標について小ままとめ	・ 小ままとめ ・ 問題演習				事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。	
6 （小林）	確認テスト	・ 小テスト1 ・ 解答解説を通じて理解を深める。				事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。	
7 （濱岡）	記述疫学、分析疫学（1）	・ 記述疫学の目的と特色を理解する。 ・ 生態学的研究、横断研究の目的と特色を理解する。				事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (濱岡)	分析疫学(2)、介入研究	・コホート研究、症例対照研究の目的と特色を理解する。 ・介入研究の目的と特色を理解する。	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
9 (濱岡)	真実と誤差、バイアス、交絡	・調査研究の結果に含まれる真実と誤差について理解する。 ・バイアス、交絡因子、信頼性と妥当性について理解する。	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
10 (濱岡)	疫学調査とEBM・EBN	・疫学調査とEBM・EBNについて理解する。 ・問題演習	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
11 (濱岡)	疫学研究方法について 小まとめ・確認テスト	・小テスト2 ・解答解説を通じて理解を深める。	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
12 (濱岡)	スクリーニングの概要	・スクリーニングの意義・方法を理解する。 ・スクリーニングの実施上の原則、感度と特異度を理解する。	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
13 (濱岡)	スクリーニングの実際	・スクリーニングの実際を理解する。 ・問題演習	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
14 (濱岡)	スクリーニングについて 小まとめ・確認テスト	・小テスト3 ・解答解説を通じて理解を深める。	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
15 (濱岡)	総まとめ	・実際の疫学研究例から、疫学研究の意義を理解する。 ・関連する国家試験問題解説	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。

授業科目	保健医療福祉行政論 Health & Welfare Administration			担当教員	武澤 千尋、安藤 陽子、小川 克子 川口 桂嗣、作並 亜紀子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者は必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				○	○	◎	○
授業目的	保健医療福祉サービスの基本的要素である保健医療福祉行政及び財政の理念と仕組みについて学ぶ。また、社会状況に応じた保健医療福祉政策の変遷を学び、施策化に必要な行政の仕組み、法規の知識を理解することで、保健医療福祉における看護職の役割と連携を考えることができる。さらに、人々の健康と生命を保持・増進する社会システムの基盤をなす医療の提供体制を理解するため、医療行政の側面からみた医療提供体制の現状と課題について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健医療福祉行政の理念と仕組みについて理解する。</li> <li>2.保健医療福祉の財政とその仕組みについて理解する。</li> <li>3.社会状況に応じた保健医療福祉行政施策の変遷からその重要性を理解する。</li> <li>4.保健医療福祉行政政策についての基本的知識を理解する。</li> <li>5.衛生行委の仕組みと関連法規を理解する。</li> <li>6.衛生行政における看護職の役割と連携について理解する。</li> <li>7.医療行政の側面からみた医療提供体制の現状と課題を理解する。</li> </ol>						
関連科目	関係法規、法と人権、社会福祉論、健康政策論Ⅰ・Ⅱが関連科目である。						
テキスト	藤内修二「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院) 厚生労働統計協会「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)・医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる」(メディックメディア)						
参考書	安武繁「研修医・コメディカルスタッフのための保健所研修ノート」(医歯薬出版株式会社) 立花良之「母親のメンタルヘルスサポートハンドブック 気づいて・つないで・支える多職種地域連携」(医歯薬出版株式会社)						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	90	到達目標の達成状況を定期試験(筆記試験:90点)と、衛生行政における看護職の役割についての学びのレポート(10点)で評価します。 近藤:20点 安藤:35点 小川:35点				
	レポート	10					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生法規については1年次の「関係法規」、社会保障制度における年金・医療・介護保険については2年次の「社会福祉論」で履修済みなので、復習に努め保健医療福祉行政についての理解を深めてください。</li> <li>・講義は教科書と配付プリントをもとに進めます。該当部分に目を通して授業に臨んでください。</li> </ul>						
課題に対するフィ ードバックの方法	・担当する教員毎に、最終授業においてフィードバックをします。						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域保健活動における経験を講義に織り交ぜながら、保健医療福祉行政を学ぶ重要性を理解しやすいように講義をします。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (武澤)	保健医療福祉行政の概 要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.厚生行政と保健医療福祉行政</li> <li>2.保健医療福祉行政の仕組み</li> <li>3.地方自治と地方分権</li> <li>4.個人情報と個人情報保護</li> </ol>				事前:1と2については「関係法規」の復習に努め、3と4については該当箇所を読み疑問点を明らかにする(1時間)。 事後:教科書と配布資料をもとに学びを整理する(2時間)。	
2 (武澤)	保健医療福祉行政の財 政	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能 ・国家財政 ・地方財政</li> <li>2.予算の機能と原則 ・財政民主主義 ・国の予算の手続き ・地方公共団体の 予算の手続き</li> </ol>				事前:財政は行政施策にとって関係法規と同じく基盤となる要素だが、難しい部分も多いので、事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする(2時間)。 事後:教科書と配布資料をもとに学びを整理する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 (川口)	社会状況に応じた保健医療福祉施策の変遷①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康日本 21 と健康増進法</li> <li>・日本の歯科保健対策</li> <li>・少子高齢化対策</li> </ul>	<p>事前：配布した資料で予習する(1時間)。</p> <p>事後：授業内容を各自のノートに整理し疑問点を明らかにする (2時間)。</p>
4 (作並)	社会状況に応じた保健医療福祉施策の変遷②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の保健医療福祉施策</li> <li>・新しい感染症対策と健康危機管理</li> </ul>	<p>事前：配布した資料で予習する(1時間)。</p> <p>事後：授業内容を各自のノートに整理し疑問点を明らかにする (2時間)。</p>
5 (小川)	保健医療福祉行政施策の基本的知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療福祉計画策定のプロセス</li> <li>・策定プロセスと住民参加</li> </ul>	<p>事前：配布した資料で予習する(1時間)。</p> <p>事後：授業内容を各自のノートに整理し疑問点を明らかにする (2時間)。</p>
6 (小川)	保健医療福祉行政における看護職の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政における保健師の役割と活動</li> <li>・衛生行政における課題と看護職の連携・協働(事例紹介)</li> </ul>	<p>事前：配布した資料で予習する(1時間)。</p> <p>事後：授業内容を各自のノートに整理し疑問点を明らかにする (2時間)。</p>
7 (安藤)	医療提供体制の現状と課題①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療提供体制の概要</li> <li>・医療行政と 2025 年問題</li> <li>・医療計画と地域医療構想</li> <li>・救急医療</li> </ul>	<p>事前：配布した資料で予習する(1時間)。</p> <p>事後：授業内容を各自のノートに整理し疑問点を明らかにする (2時間)。</p>
8 (安藤)	医療提供体制の現状と課題②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療、地域連携クリティカルパス、訪問看護</li> <li>・へき地医療</li> <li>・医療安全対策</li> </ul>	<p>事前：配布した資料で予習する(1時間)。</p> <p>事後：授業内容を各自のノートに整理し、衛生行政における看護職の役割についての学びについてのレポートを作成する (3時間)。</p>

授業科目	保健統計学Ⅰ Health Statistics			担当教員	志渡 晃一、米田 龍大		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎	○		○
授業目的	人口統計と保健・医療統計について学習し、人口構造や動向と社会・医療とのつながりを理解する。						
到達目標	保健・医療・福祉にかかわる統計調査の基礎を学び、健康や疾病の関する統計を取る意味を理解する。						
関連科目	保健統計学Ⅱ						
テキスト	1. 大木秀一「基本からわかる看護統計学入門 第2版」(医歯薬出版株式会社) 2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024 年度版」						
参考書	1. 鈴木庄亮「シンプル衛生公衆衛生学 2024」(南江堂)						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	目標の到達状況を定期試験により評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の 留意事項	・ 授業に集中し、復習により知識を身につけること。 ・ 配付資料のみでなく、テキストを3回読み込んで、体系的に復習を行うこと。						
課題に対するフィ ードバックの方法							
実務経験を 活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (志渡)	保健統計学の全体像	保健統計学の目的、人を対象とした統計学と集団における健康事象			テキストの目次を読み、事前に科目の全体像を把握しておく(1.5時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。		
2 (志渡)	保健統計調査	国民の疾病予防や健康増進を図るための統計的分析の重要性			該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。		
3 (米田)	人口統計①	人口静態：国政調査、人口ピラミッド、年齢3区分と健康指標			該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。		
4 (米田)	人口統計②	人口動態：出生、死亡、死産、婚姻、離婚、再生産率			該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。		
5 (志渡)	人口統計③	生命表、平均余命、平均寿命、健康寿命、年齢調整死亡率、SMR			該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。		
6 (米田)	保健統計①	統計法と保健統計調査、国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査等			該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (米田)	保健統計②	学校保健統計、感染症発生動向調査 等	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
8 (志渡)	保健統計③	食中毒統計、国民健康・栄養調査 等	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。



授業科目	成人看護活動論Ⅲ Adult Nursing III			担当教員	加藤 剛寿、伊藤 円、小野 善昭、池野 航平、今泉 里絵、藤井 瑞恵		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	成人期にある対象の紙上事例をもとに、看護過程の一連の流れを理解し展開する。また、この科目の学びを成人看護実習Ⅰ・Ⅱ、外来看護実習で活用できるようになることを目指し、患者・家族の対象理解を深めるための思考過程を整え、看護問題を解決するための看護実践能力の基盤を培う。なお、看護実践能力については透析看護、気管内吸引、体位ドレナージ、止血法の理解も深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人看護実習に必要な基盤となる知識・技術・態度を身につけることができる。</li> <li>2. 意図的な情報収集を行うことができ、得られた情報を整理し対象理解ができる。</li> <li>3. 得られた情報を調べた内容と複合的に関連させ、他者に伝えるアセスメントが記述できる。</li> <li>4. 情報と情報を結び付けて描画し、対象を全体的に捉えることができる。</li> <li>5. 対象に合った個別性のある具体的な看護計画を立案することができる。</li> <li>6. 気管内吸引、体位ドレナージ、止血法を理解し実践できる。</li> <li>7. 透析を必要とする人の看護を理解することができる。</li> </ol>						
関連科目	成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術」(南江堂)</li> <li>2. 矢永勝彦他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院)</li> <li>3. 北島政樹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院)</li> <li>4. 鈴木久美他編「成人看護学 慢性期看護」(南江堂)</li> </ol>						
参考書	科目の中で適宜紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標に沿って、提出物で総合的に評価する。提出物は期限、提出方法を遵守する。提出期限に遅れたものは評価の対象としない。提出物の配点は、アセスメント 40%、関連図 20%、看護計画 20%、シミュレーション 20%。詳細はガイダンス時に説明する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	100					
その他							
履修上の留意事項	成人看護実習ⅠおよびⅡ、外来看護実習の先修要件の科目です。この科目は、成人看護学の視点で紙上事例のアセスメントに取り組み、看護過程についての理解を深めるとともに、実習前の準備状況を整えるための内容になっています。看護過程に対する理解を深められるように、それぞれが主体的に取り組み、学習してください。また、シミュレーション演習では臨床場面を想定して行いますので、基礎的な看護実践能力を修得できるよう練習と振り返りを行ってください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1～3 時間の時間を要します。						
課題に対するフィードバックの方法	授業初回開始前の事前課題にはコメントを付して返却する。また、授業開始時に前回提出済みの課題における各教員のコメントを集約し全体に向けたフィードバックの実施や、各グループワーク時に各教員がグループ全体に向け助言を行う。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (加藤) (全担当教員)	成人期にある患者・家族の看護過程の展開：アセスメント①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (科目の目的、方法、評価、成人看護実習との関連)</li> <li>2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法</li> <li>3. アセスメント</li> </ol>			事前学習：事例の看護過程が展開できるよう病態ならびに治療を予習する。 事後学習：アセスメントの見直し、修正		
2 (加藤) (全担当教員)	看護過程の展開：アセスメント②	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメントの振り返り</li> <li>2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法</li> <li>3. 関連図の書き方</li> </ol>			事前学習：アセスメントを修正し、他者に説明できるようにしておく。 事後学習：アセスメントの修正、関連図の作成		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 (加藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：アセスメント③、関連図①	1. 全体像の共有、他者への説明 2. 関連図の描画の視点	事前学習：アセスメントを修正し、他者に説明できるようにしておく。また、関連図を作成しておく。 事後学習：アセスメントの提出
4 (加藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：関連図②	1. 関連図の共有、他者への説明 2. 看護問題の明確化	事前学習：関連図を修正しておく。 事後学習：関連図の提出
5 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：看護計画の立案①	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 目標、期待される結果と看護の関連を共有、他者への説明	事前学習：具体的な看護に結びつくよう参考書を選定、持参する。 事後学習：看護計画の見直し、修正
6 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：看護計画の立案②	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 次回シミュレーションのガイダンス	事前学習：看護計画を振り返り、修正しておく。 事後学習：看護計画の提出
7 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：シミュレーション観察・報告①	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出
8 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：シミュレーション観察・報告②	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出
9 (伊藤) (全担当 教員)	呼吸を整える援助①	1. 一時的吸引の方法とその適応 2. 気管内吸引の実際	事前学習：気管内吸引を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：演習の内容を振り返る
10 (伊藤) (全担当 教員)	呼吸を整える援助②	1. 体位ドレナージの目的とその適応 2. 体位ドレナージの方法とドレナージされる肺区域 3. 体位ドレナージの実際	事前学習：体位ドレナージを実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：演習の内容を振り返る
11 (加藤)	慢性腎臓病を抱えて生活する人の透析看護	1. 血液透析を必要とする人の特徴 2. 血液浄化の実際 3. 血液透析を必要とする人の看護 (GS 透析看護透析看護認定看護師 若林 マリア氏)	事後学習：講義の内容を振り返る。
12 (小野) (全担当 教員)	診療・処置時の看護技術：救急処置における止血法	1. 出血の種類と出血をきたす病態 2. 一次的止血法(直接圧迫止血法、間接圧迫止血法、止血帯法など) 3. 一次的止血法の実際	事前学習：止血法を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：演習の内容を振り返る
13 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：シミュレーション生活援助1	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※13回、14回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入
14 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：シミュレーション生活援助2	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※13回、14回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入
15 (加藤) (全担当 教員)	看護過程：評価、修正	看護過程の振り返り、まとめ、成人看護実習Ⅰ・Ⅱに向けた準備	事前学習：初回授業から行なってきた看護過程における自身の課題、疑問点を整理しておく。

授業科目	外来看護実習 Outpatient Section Nursing Practicum			担当教員	小野 善昭、藤井 瑞恵、加藤 剛寿、 伊藤 円、池野 航平、今泉 里絵		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	外来を受診する患者が、疾患や障がいを抱えながら在宅で生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える心身ならびに生活の営みへの影響を理解し、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。また、在宅での継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、外来看護の役割を学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来通院している対象の概要や、施設の機能と役割、ならびに外来の特徴、多職種連携や看護提供体制について理解できる。</li> <li>2. 退院支援室、外来化学療法室、透析室、外来診察室等で実践している看護について理解できる。</li> <li>3. 外来診察室等での対象との関わりを通して、対象者が疾患や障がいを抱えながら生活することの意味、疾患そのものや治療が与える心身ならびに生活の営みへの影響が理解できる。</li> <li>4. 外来診察室等での看護実践を通して、在宅での継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、外来看護の役割を考えることができる。</li> <li>5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。</li> <li>6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。</li> </ol>						
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。更に関連する科目は、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」全ての科目にも関連する。						
実習内容	外来診察室等での対象との関わりや退院支援室、外来化学療法室、透析室、外来診察室等での看護実践の見学を通して、疾患や障がいを抱えながら在宅で生活する対象を理解していきます。 詳細は実習要項を参照のこと。						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙評価基準（ルーブリック表など）を使用する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の 留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってください。また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われる場合もあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。						
課題に対するフ ィードバックの 方法	実習記録へのコメントや個別指導を行い、日々の学習内容に対するフィードバックを行います。また、目標の達成状況や課題についてルーブリック表を用いながら個別に助言します。						
実務経験を 活かした教育内容	臨床での勤務経験や実習指導の経験を踏まえて、外来を受診する患者が、疾患を抱えながら在宅で生活することの意味や疾患そのものや治療が与える心身ならびに生活の営みへの影響について理解しやすいように指導を行います。						
実習方法	詳細は実習要項を参照のこと。						
実習施設	札幌東徳洲会病院、北光記念病院、札幌医科大学附属病院、札幌北楡病院、札幌麻生脳神経外科病院、石橋胃腸病院、静和記念病院						

授業科目	成人看護実習Ⅰ Adult Nursing : Practicum Ⅰ			担当教員	小野 善昭、加藤 剛寿、伊藤 円、池野 航平、今泉 里絵、藤井 瑞恵		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	急性期にある患者・家族を多側面からアセスメントし、患者・家族の健康段階に応じた知識・技術・態度を養う。特に、身体侵襲が患者に及ぼす影響について理解を深めるとともに、心身の侵襲を最小限にし、回復のための看護過程を展開する。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を理解できる。</li> <li>2. 急性期（急性疾患、周手術期、慢性疾患の急性増悪等）における患者の健康上の課題をとらえ、看護過程を展開することができる。</li> <li>3. 患者・家族を生活者の視点でとらえ、回復促進のための援助ができる。</li> <li>4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。</li> <li>5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。</li> <li>6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。</li> </ol>						
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、外来看護実習、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。更に関連する科目は、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」全ての科目にも関連する。						
実習内容	急性期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 詳細は実習要項を参照のこと。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってください。また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。						
課題に対するフィードバックの方法	実習記録へのコメントや個別指導を行い、日々の学習内容に対するフィードバックを行います。また、目標の達成状況や課題についてルーブリック表を用いながら個別に助言します。						
実務経験を活かした教育内容	急性期領域での勤務経験や実習指導の経験をふまえて、急性期にある対象の看護過程について個々の学生が理解しやすいように指導を行います。						
実習方法	詳細は実習要項を参照のこと。						
実習施設	札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、札幌医科大学附属病院、手稲溪仁会病院、札幌北楡病院、札幌麻生脳神経外科病院						

授業科目	成人看護実習Ⅱ Adult Nursing : Practicum II			担当教員	藤井 瑞恵、伊藤 円、加藤 剛寿、池野 航平、今泉 里絵、小野 善昭		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	成人期にある患者・家族が、疾患を抱えながら生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える、心身ならびに生活の営みへの影響を理解するとともに、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。また、継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、看護の役割を学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を統合的に理解できる。</li> <li>2. 慢性的に経過する疾患を抱える患者・家族の看護上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。</li> <li>3. 看護実践における人間関係形成の重要性を認識し、相互に成長することの意味を深め、援助的人間関係を形成できる。</li> <li>4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。</li> <li>5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。</li> <li>6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。</li> </ol>						
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、外来看護実習、成人看護実習Ⅰが主な関連科目となります。更に、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」の全ての科目とも関連します。						
実習内容	原則として、慢性期・回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開します。詳細は、実習要項を参照して下さい。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100%	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ループリック表を使用する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってきてください。また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。						
課題に対するフィードバックの方法	実習記録へのコメントや個別指導を行い、日々の学習内容に対するフィードバックを行います。また、実習の中間時点で形成評価のために面談を実施し、目標の達成状況や課題についてループリック表を用いながら助言します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、成人期にある対象の看護について理解しやすいように実習指導を行います。						
実習方法	詳細は、実習要項を参照して下さい。						
実習施設	北海道がんセンター、西成病院、愛育病院、北光記念病院、石橋胃腸病院						

授業科目	高齢者看護活動論 II Gerontological Nursing II		担当教員	中田 真依、服部 ユカリ、中武 延			
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	演習		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	<p>老年期にある対象をエンドオブライフ・ケアの視点から全人的に捉え、必要となる専門職連携（IPW）、家族への支援、施設看護の役割、認知症ケア、倫理的課題に関する看護実践能力を発展的に学修する。また、老年期にある対象を全人的に捉え、目標を志向しながら看護を展開する方法を理解し、紙上事例を用いた看護過程演習を通して高齢者看護実習に向けた看護実践力を修得する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象への認知症ケアに関する応用的知識や技術を理解し、実践できる。</li> <li>2. 老年期にある対象へのエンドオブライフ・ケアを理解し、説明できる。</li> <li>3. 施設看護の役割を理解し、地域で生活する高齢者を捉えた看護の継続性を説明できる。</li> <li>4. 紙上事例をもとに老年期にある対象への看護過程を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事例の健康状態や加齢変化を捉え生活機能の視点でアセスメントできる。</li> <li>2) アセスメントを統合し、関連図の作成を経て全体像と援助の方向性を説明できる。</li> <li>3) 対象の強みを活かし、個別性に応じた看護目標や看護計画を立案できる。</li> <li>4) 個別指導や講義内容を通して自らの看護過程を振り返り、修正できる。</li> <li>5) 看護計画をグループで共有し、模擬実践および評価ができる。</li> </ol> </li> <li>5. 講義・演習全般において、家族支援や IPW、倫理的課題を理解し、説明できる。</li> </ol>						
関連科目	高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅰ、高齢者看護実習						
テキスト	北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院)						
参考書	山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」(医学書院) 他、講義内で紹介する						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を、事前課題、小テスト、看護過程課題から総合的に評価する。				
	レポート	10	1. 事前（春休み）課題 10点				
	小テスト	20	2. 小テスト 20点				
	提出物	70	3. 看護過程提出物（課題①～③）70点 課題①：アセスメント初回提出 20点 課題②：アセスメント修正 15点＋関連図/全体像～援助の方向性 15点 ＋看護計画 10点 課題③：看護計画の実施・評価 10点				
その他							
履修上の留意事項	高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅰを復習し、必要な準備を整えて臨むこと（個人パソコン、電子媒体、関連資料等）。提出物が遅れた場合は原則評価に影響する。						
課題に対するフィードバックの方法	課題はコメントを記し、返却します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう講義・演習を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (中田)	高齢者看護と倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 高齢者看護における倫理的課題</li> </ol> <b>【春休みの課題の回収】</b> 認知症ケアを1つ選びまとめる			事前学習：シラバスを読む、高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱ、活動論Ⅰの復習（2時間以上） 事後学習：講義の復習（2時間）		
2 (服部)	認知症③	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症高齢者の体験する世界</li> <li>2. 地域で生活する認知症高齢者と家族への支援、IPW</li> </ol> <b>【演習の説明】</b> 認知症ケアの実践について説明			事前学習：講義の予習（2時間） 事後学習：講義の復習、演習の準備（2時間以上）		
3 (中田)	<b>【演習】</b> 認知症ケアの実践	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症看護の実践：パーソンセンタードケア、ユマニチュード、タクティールケア、回想法など</li> <li>2. グループワーク・発表</li> </ol>			事前学習：講義の予習（2時間） 事後学習：演習の復習（2時間）		
4 (中田)	施設看護の役割と IPW	GS（老人看護専門看護師） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設看護の役割と IPW</li> <li>2. 施設における高齢者看護の実践</li> </ol>			事前学習：講義の予習（2時間） 事後学習：講義の復習（2時間）		
5 (中田)	エンドオブライフ・ケア	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ACP、リビングウェル他</li> <li>2. 高齢者看護におけるエンドオブライフ・ケア</li> </ol>			事前学習：講義の予習（2時間） 事後学習：講義の復習（2時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (中田)	小テスト 看護過程演習ガイダンス①	1. 小テスト (1~5 回目の授業に関する評価) 2. 演習ガイダンス①: 紙上事例を用いた看護過程演習、アセスメントガイドの説明 【課題①②③】看護過程の展開	事前学習: 小テストの準備 (2 時間以上) 事後学習: 演習の準備、課題①の作成 (2 時間以上)
7 (中田)	老年期にある対象の 看護過程①	1. 老年期にある対象の看護過程 2. アセスメント	事前学習: 講義の予習 (2 時間) 事後学習: 課題①の作成 (2 時間以上)
8 (中田)	老年期にある対象の 看護過程②	1. 関連図、全体像と援助の方向性 2. 看護目標、看護計画	事前学習: 講義の予習 (2 時間) 事後学習: 課題①の作成 (2 時間以上)
9 (中田他)	【演習】 個別指導	1. 個別指導: アセスメント、関連図、全体像~援助の方向性までの課題①を返却・個別フィードバック (2~3 クラス展開)	事前学習: 個別指導の準備 (2 時間) 事後学習: 課題②の作成 (2 時間以上)
10 (中田)	老年期にある対象の 看護過程③ 看護過程演習ガイダンス②	1. 看護の実施・評価 2. 演習ガイダンス②: グループワークと模擬実践の説明	事前学習: 講義の予習 (2 時間) 事後学習: 講義の復習 (2 時間以上)
11 (中田)	老年期にある対象の 看護過程④	1. 課題②を返却 2. 看護過程 (アセスメント~看護計画) の全体フィードバック	事前学習: 講義 (看護過程①②) の復習 (2 時間) 事後学習: 課題②の修正、グループワーク準備 (2 時間以上)
12 (中田他)	【演習】 グループワーク①	1. 看護計画の共有 2. 模擬実践に向けた看護計画の作成 (グループで1つ)	事前学習: 課題②の修正、グループワーク準備 (2 時間以上) 事後学習: 模擬実践の準備
13 (中田他)	【演習】 看護計画の模擬実践	1. 看護計画に基づき看護を実施 (グループで実施) 2. 模擬実践の振り返り (2~3 クラス展開)	事前学習: 模擬実践の準備 事後学習: 課題③の作成
14 (中田他)	【演習】 グループワーク②	1. 模擬実践の評価 (SOAP) の共有 2. 模擬実践のフィードバック (グループ)	事前準備: グループワーク準備 事後学習: グループワークの復習
15 (中田)	老年期にある対象の 看護過程⑤	1. 看護過程 (模擬実践、評価) の全体フィードバック 2. 活動論IIのまとめ 【課題提示】高齢者看護実習前の課題	事前学習: 課題全般の復習 (2 時間) 事後学習: 活動論II全体の復習、実習前課題の作成 (2 時間以上)

授業科目	高齢者看護実習 Gerontological Nursing Practicum		担当教員	服部 ユカリ、中田 真依、中武 延			
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	実習		単位数	3単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	本実習の過程を通して、老年期にある対象を全人的に理解し、対象や家族が望む目標を志向しながら健康課題や生活機能に応じた看護をエンドオブライフ・ケアの視点で実践する基礎的知識・技術・態度を養う。また、老年期にある対象を取り巻く環境や家族関係を踏まえ、保健医療福祉チームにおける専門職連携の在り方を理解し、看護師の役割を果たすための能力を養う。さらに、看護専門職を志す学生として主体的に学習し、倫理的側面からの学びを経て高齢者看護学の実践に繋がる感性を養う。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象を身体的・心理的・社会的・発達の側面、および価値・信念を捉え全人的に理解し、対象や家族が望む援助の方向性についてエンドオブライフを踏まえて説明できる。</li> <li>2. 老年期にある対象に必要な看護計画を立案し、保健医療福祉チームの一員として目標を志向した看護援助を実施・評価できる。</li> <li>3. 看護学生として責任を自覚し、老年期にある対象の倫理的課題を思考できる。</li> </ol>						
関連科目	高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅰ・Ⅱ						
実習内容	病院実習3週間(3単位)の実習である。本実習内容の詳細は、実習要項に沿ってガイダンス時に説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点				
	試験		実習目標の到達度を評価基準に基づき評価する。 ※実習要項参照				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	100					
その他							
履修上の留意事項	高齢者看護学の講義内容を復習し、講義資料や作成した課題(脳卒中、認知症、事前課題)、高齢者看護活動論Ⅱで使用した記録見本やアセスメントガイドを準備して実習に臨むこと。						
課題に対するフィードバックの方法	実習期間中には記録に対する個別フィードバックを行い、評価確定後に実習ファイルを返却する。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、老年期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。						
実習方法	実習方法の詳細は実習要項を参照すること。主な内容として、老年期にある対象を原則1名受け持ち、看護過程を展開する。						
実習施設	医療法人愛全会 愛全病院 IMS(イムス)グループ医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院 社会医療法人医翔会 札幌白石記念病院 医療法人溪仁会 札幌西円山病院 医療法人北祐会 北海道脳神経内科病院 医療法人社団豊生会 東苗穂病院 医療法人清仁会 北海道内科リウマチ科病院						



授業科目	小児看護活動論Ⅰ Pediatric Nursing Ⅰ			担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	◎	
授業目的	小児の主要な健康障害について理解し、その診断・治療過程にある小児への援助方法について講義をとおして学ぶ。また、演習では健康障害を持つ小児を抱える家族との関係形成の方法や援助方法について学ぶ。						
到達目標	1. 健康問題や健康障害および入院が、小児とその家族に及ぼす影響について理解する。 2. 様々な健康レベルにある小児とその家族への支援方法について理解する。 3. 小児を対象とした看護過程の展開方法について理解する。						
関連科目	主に、小児看護学概論、小児看護活動論Ⅱ、小児看護実習に関連する。 看護技術については、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤として、小児を対象とした方法について学習します。						
テキスト	1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論改訂第4版」(南江堂) 2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術改訂第4版」(南江堂)						
参考書	1. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」(医学書院) 2. 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂第2版」(インターメディカ) 3. 医療情報科学研究所「病気がみえる小児科」(メディックメディア) 4. 添田啓子他「看護実践のための根拠がわかる小児看護技術」(メヂカルフレンド社)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	60	到達目標1~3の総合評価として、目標の到達状況を1) 2) 3)の視点から総合的に評価し、60点以上を合格とする。 1) 定期試験(60点) 2) 看護過程の提出物(20点) 3) 講義におけるワークシート(20点) 授業中の自己学習時間において、欠席・必要な資料などの持参に不備があった場合は減点対象とする。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	40					
その他							
履修上の留意事項	演習は、実際の場面を想定して行います。オリエンテーション内容を理解し、事前・事後学習をしっかりと行い演習に臨みましょう。						
課題に対するフィードバックの方法	提出後のワークシートは、確認後返却の際に個別のコメントまたは講義内に全体へフィードバックを行います。また、質問については随時、回答していきます。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (河崎)	ガイダンス/ 子どもとのコミュニケーション技術と遊びの援助技術(講義とワーク)	1. ガイダンス 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項、小児看護技術マニュアルの配布及び説明、テキスト類の活用方法について 1) 子どもとのコミュニケーション技術と遊びの援助技術について理解する。 ① 発達段階別の小児の特徴理解とコミュニケーション技術 ② 病院における小児とのコミュニケーション技術 ③ 遊びの援助技術 2) 事例を用いて対応方法を検討してワークシートに記載する。講義終了後、ワークシートを提出する。				事前学習: 概論で学習した小児各期の成長・発達の特徴を復習し、講義に臨む(1時間)。 事後学習: 子どもとのコミュニケーション技術と遊びの援助技術について復習する(45分)。	
2 (河崎)	子どもに特徴的な症状と看護①	1. いつもと違う 2. 痛みを表現している子どもと家族への看護 3. 発熱				事前学習: 子どもに特徴的な症状について学習してくる自分なりにノートに整理してくる(1時間) 事後学習: 講義内容を復習して、要点をまとめる(1時間)。	
3 (河崎)	子どもに特徴的な症状と看護②	1. 脱水 2. 嘔吐 3. 下痢 ※3・4連続で行う。ワークの実施。				事前学習: 子どもに特徴的な症状について学習してくる自分なりにノートに整理してくる(1時間) 事後学習: 講義内容を復習して、要点をまとめる(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (河崎)	子どもに特徴的な症状と看護③	1. 呼吸困難 2. けいれん ※3・4連続で行う。ワークの実施。 4限講義終了後、ワークシートを提出する。	事前学習：子どもに特徴的な症状について学習してくる自分なりにノートに整理してくる(1時間) 事後学習：講義内容を復習して、要点をまとめる(1時間)。
5・6 (河崎)	手術を受ける子どもと家族の看護とプレパレーション	1. 手術を受ける子どもと家族の看護 2. インフォームド・アセント 3. プレパレーション ※DVD視聴後、グループワークを行う  ワークシートは指定の期日に提出する(別途お知らせします)。	事前学習：プレパレーションの意義・目的・方法について自分なりにまとめる(30分)。 事後学習：講義終了後、プレパレーションの意義・目的・方法について復習する(30分)。
7 (河崎)	状況別にみる子どもと家族の看護	1. 活動制限が必要な子どもと家族の看護 2. 隔離が必要な子どもと家族の看護	事前学習：テキストの該当箇所を読む(30分)。 事後学習：活動制限や隔離が必要な子どもと家族の看護について復習する(1時間)。
8 (河崎)	事例でみる子どもと家族の看護①	1. 呼吸窮迫症候群のある子どもと家族の看護 2. 腸重積症のある子どもと家族の看護 3. 直腸肛門奇形(鎖肛)のある子どもと家族の看護	事前学習：テキストの該当箇所をよみ、自分なりにノートにまとめる(1時間)。 事後学習：学修内容を復習する(1時間)。
9 (河崎)	事例でみる子どもと家族の看護②	1. 気管支喘息のある子どもの家族と看護 2. アレルギーのある子どもの看護 3. アレルギーエデュケーターの香川先生をゲストスピーカーとして講話いただきます。	事前学習：気管支喘息の看護について学習してくる(1時間)。 事後学習：気管支喘息のある子どもと家族の看護について復習する(1時間)。
10 (河崎)	事例でみる子どもと家族の看護③	1. 低出生体重児の子どもと家族の看護 2. 川崎病のある子どもの家族と看護	事前学習：低出生体重児および川崎病の看護について学習してくる(1時間)。 事後学習：学修した内容を復習する(1時間)。
11 (佐々木/河崎)	事例でみる子どもと家族の看護④	1. 急性リンパ性白血病のある子どもと家族の看護 髄膜炎のある子どもと家族の看護	事前学習：急性リンパ性白血病および髄膜炎の看護について学習してくる(1時間)。 事後学習：学修した内容について復習する(1時間)。
12 (河崎)	事例でみる子どもと家族の看護⑤	1. てんかんの子どもと家族の看護 2. 脳性麻痺のある子どもと家族の看護	事前学習：テキストの該当箇所をよんでくる(1時間)。 事後学習：脳性麻痺のある子どもの看護について復習する(1時間)。
13 (三上/河崎)	終末期にある子どもと家族への看護	1. 終末期にある子どもと家族への看護について理解する。 1) 小児の死の概念発達 2) 終末期にある子どもと家族の心理および看護 3) インフォームドコンセントと告知 4) 子どもを亡くした家族の看護 小児専門看護師三上先生をゲストスピーカーとして講話いただきます。	事前学習：テキストを読んでくる(30分)。 事後学習：講義内容を復習する(1時間)。
14 (佐々木/河崎)	先天性疾患や慢性的な経過をとる疾患をもつ小児と家族への看護	1. 慢性疾患をもつ子どもと家族の看護 1) ネフローゼ症候群のある子どもの家族と看護 2) 1型糖尿病のある子どもの家族と看護 3. 先天性疾患をもつ子どもと家族の看護	事前学習：テキストを読んでくる(30分)。 事後学習：講義内容を復習する(1時間)。
15 (河崎)	小児における看護過程	1) 小児看護の視点 2) アセスメントツールについて 3) 事例の提示(事例紹介) ※ショート事例の展開(ワーク) 看護過程について、期日までに提出(別途お知らせします)。	事前学習：今まで学習した内容を復習してくる(1時間)。 事後学習：小児の看護過程について復習する。事例の看護展開を実施してみる(2時間)。

授業科目	小児看護活動論Ⅱ Pediatric Nursing II		担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ			
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	演習		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	これまでの学内での学習内容を臨地実習で活用できることを目的とし、小児およびその家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を修得するために看護事例を使い、小児の健康上の課題をアセスメントし、看護計画立案をして、その計画に沿った実施、評価について演習を通して学習する。また、保健医療福祉チームとの連携のあり方についても学習する。特に、教育機関や小児に関わる福祉機関等との連携・協働について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 紙上事例の小児とその家族についてアセスメントした内容から全体像を把握し、看護問題を明確化できる。</li> <li>2. 1で明らかになった看護問題を解決するため具体的かつ科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。</li> <li>3. 2の看護計画立案では安全性、安楽性、成長・発達を考慮したケアの内容が考えられる。</li> <li>4. 看護問題が解決、改善されたかを判断する看護評価の視点が考えられる。</li> <li>5. 子どもに特有な看護技術を理解し、対象者に適した方法で実践することについて説明できる。</li> </ol>						
関連科目	小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰ						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論改訂第4版」(南江堂)</li> <li>2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術改訂第4版」(南江堂)</li> </ol>						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」(医学書院)</li> <li>2. 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂第2版」(インターメディカ)</li> <li>3. 医療情報科学研究所「病気がみえる小児科」(メディックメディア)</li> <li>4. 添田啓子他「看護実践のための根拠がわかる小児看護技術」(メヂカルフレンド社)</li> </ol>						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	目標への到達状況を筆記試験、レポート、提出物により総合的に評価する。 1. 筆記試験 (50点) 2. 提出物は、事例に関する看護過程展開に関する一式 (40点)・発表 (10点) から総合的に評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	50					
その他							
履修上の留意事項	本科目は、小児看護実習に臨むうえで総合的な意味をもつ科目であるため、各自、小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰを十分に復習して授業に取り組みましょう。						
課題に対するフィードバックの方法	提出されたワークや課題の返却にコメントや講義内での説明、または、teams等にてフィードバックします。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (河崎)	ガイダンス/ 入院における子どもと 家族の看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス 本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項とテキスト参考図書について説明する。</li> <li>2) 入院における子どもと家族の看護</li> </ol>			事前学習:テキストを読み、入院における子どもと家族の看護についてまとめる(1時間)。 事後学習:講義後、学習した内容について復習する(1時間)。		
2 (河崎)	小児における 看護過程① (グループ ワーク)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事例の看護展開               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報整理、アセスメントを実施する。</li> <li>② 看護問題の明確化をする。</li> <li>③ 看護計画を立案する。</li> </ol> </li> </ol>			事前学習:事例のアセスメントをしていく(2時間)。 事後学習:グループワークをもとにアセスメントを修正し、看護課題の明確化をする(1時間)。		
3 (河崎)	小児における 看護過程②  (グループ ワーク)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 紙上事例について、看護展開をする。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①明確になった看護課題について、グループメンバーで共有し、看護計画を立案する。</li> <li>②グループメンバーで検討した事例に必要なケアの根拠を明確にし、必要な場合は、媒体資料の作成も行う。</li> </ol> </li> </ol>			事前学習:紙上事例について看護計画を立てていく(2時間)。 事後学習:グループで意見交換したことをもとに看護計画を修正し、グループでまとめて提出する(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (河崎・佐々木)	小児における看護過程③	事例の看護過程発表会 ※提出日については講義内に詳細はお伝えします。	事前学習：グループごとに発表資料を作成し、指定期日までに共同研究室前のBOXに提出（1時間）。 事後学習：発表会の内容をもとに、各自で自己の立案した計画等について振り返りする（30分）。
5 (佐々木・河崎)	小児の状態把握のための看護技術①～観察（講義）	1) 小児の健康状態の観察に必要な5つの基本技術 2) バイタルサインの診方 ※DVD 視聴	事前学習：テキストを読んでくる（45分）。 事後学習：学習した内容を復習する（1時間）。
6 (佐々木・河崎)	小児の状態把握のための看護技術② /小児の検査・処置に伴う看護技術①（講義）	1) 身体計測と計測値の評価 2) 採血、採尿、導尿 3) 抑制と吸引 ※DVD 視聴	事前学習：テキストを読んでくる（45分）。 事後学習：学習した内容を復習する（1時間）。
7 (佐々木・河崎)	小児の治療に伴う看護技術（講義）	1) 与薬 2) 吸入 3) 輸液管理・点滴の固定交換（輸液ポンプの扱い方含む）	事前学習：テキストを読んでくる（45分）。 事後学習：学習した内容を復習する（1時間）。
8・9 (佐々木・河崎)	小児の状態把握のための看護技術③～バイタルサイン測定（演習）	1) 模擬人形を用いて小児の状態把握のための看護技術を行う。 ①バイタルサイン測定 ②身体計測 ③採尿 ※2クラス展開	事前学習：指定した教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく（1時間）。 事後学習：指定の用紙に必要な事項及び振り返りを記載し、提出する（1時間）。
10・11 (佐々木・河崎)	小児の処置・治療に伴う看護技術②（演習）	1) 模擬人形を用いて小児の処置・治療に伴う看護技術を行う。 ①経口与薬 ②吸入 ③吸引 ④点滴の固定交換 ※2クラス展開	事前学習：指定した教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく（1時間）。 事後学習：指定の用紙に必要な事項及び振り返りを記載し、提出する（1時間）。
12 (河崎)	小児の救急救命処置技術（講義）	1) 小児の救急 ①一次救命処置のアルゴリズム ②小児の救急救命処置 ③二次救命処置 ※DVD 視聴	事前学習：小児看護技術マニュアルの救急救命処置技術について読み、イメージトレーニングして臨む（1時間）。 事後学習：講義内容を復習し、アルゴリズムおよび基本的な手技（人工呼吸・胸骨圧迫）について復習する（1時間）。
13 (河崎・佐々木)	小児の救急救命処置技術（演習）	1) 気道確保 2) 人工呼吸 3) 胸骨圧迫 ※人形モデルを使用して模擬実践する	事前学習：アルゴリズムおよび基本的な手技（人工呼吸・胸骨圧迫）について復習する（1時間）。 事後学習：演習内容を振り返り、自己評価をする。シートを提出する（30分）。
14 (河崎)	医療的ケアが必要な子どもと家族への在宅療養に向けた援助①	1) 退院支援の方向性 2) 退院に向けた支援・多職種との連携 3) 他機関との調整・退院後のモニタリング ※DVD 視聴 講義後、ワークシートを提出します	事前学習：テキストを読んでくる（30分）。 事後学習：講義内容を復習する（1時間）。
15 (河崎)	医療的ケアが必要な子どもと家族への在宅療養に向けた援助②	1) 札幌市内の療育施設のリサーチ ①グループワークを行い、資料をまとめる。 ②発表 講義終了後、グループでまとめた資料を提出する。	事前学習：各自、札幌市内で医療的ケア児のケア、在宅医療看護をしている施設を調べてくる（1時間） 事後学習：講義内容を復習する（1時間）。

授業科目	母性看護活動論Ⅱ Maternal and Newborn Care Nursing II			担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	母子および家族の看護を行う上で必要な知識・技術・態度を修得するために、事例を用いてウエルネスの視点での看護過程の展開を行う。既習の知識を整理・統合しながら、事例の健康上の課題をアセスメントし、健康課題に対する看護計画の立案および実施、評価について学修する。統合体としての対象者の全体像を理解し、健康課題を明らかにする過程で、健康の保持・増進への看護についても学ぶ。また、地域社会における子育て支援の実践を学修し、事例への活用を考え、地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例の妊娠期・分娩期の経過を踏まえ、ウエルネスの視点で褥婦の健康課題を考えることができる。</li> <li>2. 褥婦の健康課題を解決するために必要な看護ケアとその根拠を説明できる。</li> <li>3. 事例の産褥経過についてアセスメントを行い、個別の看護援助を考えることができる。</li> <li>4. 早期新生児期にある児が胎外生活に適応する変化の過程をアセスメントすることができる。</li> <li>5. 子育てを行う家族に対する育児支援と課題について考えることができる。</li> <li>6. 地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について考えることができる。</li> <li>7. 母性看護に必要な看護援助技術を修得する。</li> </ol>						
関連科目	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護実習Ⅰ、Ⅱ						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論」(医学書院)</li> <li>2. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論」(医学書院)</li> </ol>						
参考書	講義の中で、随時紹介します。 *母性看護学のアセスメントに必要なツールは講義時に配布します。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	40	目標への到達状況を筆記試験、提出物、演習の状況により総合的に評価する。 1) 定期試験：筆記試験(40点)では、妊産褥婦、および新生児期の看護を展開する上で必要な基礎的知識と育児支援の諸制度に関する知識を問う。 2) 提出物(60点)：以下の3点が対象となる。 ①ウエルネス的視点での看護過程の展開(30点) ②育児支援の課題と多職種との連携に関するレポート(20点) ③看護技術演習のレポート(10点) ・提出物の詳細は講義で説明します。 ・定期試験を受験しなかった場合は評価の対象とはしません。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	60					
その他							
履修上の留意事項	講義は、母性看護活動論Ⅰの学習内容をふまえて行われます。個人の課題学習をしっかりと行って授業に臨んでください。						
課題に対するフィードバックの方法	看護過程は、授業内で段階ごとにフィードバックを行います。提出物はコメントして返却します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、ウエルネスの視点での看護過程と育児支援について理解しやすい授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (全教員)	ガイダンス 産褥期の看護過程① ウエルネスの視点での看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウエルネスの視点での看護過程について理解する。</li> <li>2. 産褥期の事例に対する情報整理、アセスメントの視点を理解する。</li> </ol>				事前学習：母性看護活動論Ⅰの復習(2時間) 事後学習：指定された課題の実施(2時間)	
2 (全教員)	産褥期の看護過程② 退行性変化のアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥期の事例の退行性変化をアセスメントできる。</li> <li>2. 褥婦のもつ健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。</li> </ol>				事前学習：指定された課題の実施と提出(2時間) 事後学習：事例のアセスメントの修正(課題の実施)(2時間)	
3 (全教員)	産褥期の看護過程③ 進行性変化のアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥期の事例の進行性変化をアセスメントできる。</li> <li>2. 褥婦のもつ健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。</li> </ol>				事前学習：指定された課題の実施と提出(2時間) 事後学習：事例の看護計画の修正(課題の実施)(2時間)	
4 (全教員)	産褥期の看護過程④ 援助計画の立案	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 褥婦のもつ健康課題を解決するための援助計画を立案できる。</li> <li>2. 退院後の生活を見通した援助について理解する。</li> </ol>				事前学習：指定された課題の実施と提出(2時間) 事後学習：事例のアセスメントの修正(課題の実施)(2時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (全教員)	産褥期の看護過程⑤	心理、親役割獲得過程、家族および社会生活に関する健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。	事前学習：指定された課題の実施と提出（2時間） 事後学習：事例の看護計画の修正（課題の実施）（2時間）
6 (全教員)	産褥期の看護過程⑥	1. 産褥期の看護過程の評価について理解する。 2. 産褥期のマイナートラブルに対する援助を理解する。	事前学習：事例の情報を読んでおく。必要な資料を準備する（2時間）。 事後学習：事例の看護過程の評価を行う。マイナートラブルに対する援助をまとめる。（課題の実施、提出）（3時間）
7 (全教員)	育児支援①	産褥期、育児期に活用できる社会資源を理解する。	事前学習：事例の資料を読み理解する（1時間）。 事後学習：事例に活用できる社会資源について調べる（1時間）。
8 (全教員)	育児支援②	事例に対する育児支援について援助計画を立案する。	事前学習：事例に活用できる社会資源について調べる（2時間）。 事後学習：事例に対しての援助計画を立案する（2時間）。
9 (全教員)	育児支援③	育児支援に関する現状と課題について理解する。	事前学習：テーマに対する事前学習を行う（1時間）。 事後学習：授業の内容を整理する（1時間）。
10 (全教員)	育児支援④	育児支援に関する現状と課題について理解する。	事前学習：テーマに対する事前学習を行う（1時間）。 事後学習：授業の内容を整理する（1時間）。
11 (全教員)	妊婦・褥婦・新生児の健康診査	妊婦：レオポルド触診法、胎児心音聴取など 褥婦：子宮復古観察、授乳への援助など 新生児：全身観察、バイタルサイン測定	事前学習：配布資料をよく読み看護援助の手順を理解する。 演習シートによる事前学習を行う。 （11回、12回分2時間）
12 (全教員)	妊婦・褥婦・新生児の健康診査	妊婦：レオポルド触診法、胎児心音聴取など 褥婦：子宮復古観察、授乳への援助など 新生児：全身観察、バイタルサイン測定	事後学習：演習内容を振り返り、看護技術の修得のために自己学習を行う。 （11回、12回分2時間）
13 (全教員)	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助	産褥期の看護援助技術 新生児期の看護援助技術（保清）	事前学習：配布資料をよく読み看護援助の手順を理解する。演習シートによる事前学習を行う。 （13回、14回分2時間）
14 (全教員)	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助	産褥期の看護援助技術 新生児期の看護援助技術（保清）	事後学習：演習内容を振り返り、看護技術の修得のために自己学習を行う。 （13回、14回分2時間）
15 (全教員)	まとめ	ウェルネスの視点での看護過程のまとめ 統合体としての対象者の理解 健康の保持・増進への看護	事前学習：講義全体で不明な点を明らかにしておく（1時間） 事後学習：学びの整理を行う（1時間）

授業科目	母性看護実習Ⅰ Maternal Nursing PracticumⅠ			担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	地域で生活し次世代を育成するという発達課題をもつ人々への包括的な支援を理解し、利用者のニーズと実際の支援について学ぶ。多様な価値観をもつ人々が生活する社会で、子育て支援がどのように行われているかを理解し、地域における課題を理解する。実際の利用者とし、家族への支援の在り方と看護職の役割の理解に繋げ、子育て支援における多職種と協働できる基礎的能力を体験を通して学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て支援を受ける利用者が抱える課題とニーズについて説明できる。</li> <li>2. 子育て支援の実際を体験し、支援の意義、支援者の役割を考えることができる。</li> <li>3. 次世代を育成する発達課題をもつ対象者への包括的支援の在り方について考察できる。</li> </ol>						
関連科目	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱ、母性看護実習Ⅱ						
実習内容	地域における育児支援を学ぶ1週間の(1単位)の実習です。実習内容の詳細は、実習要項に沿ってガイダンス時に説明します。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点				
	試験		目標到達度を評価基準に基づき、実習場での実習内容・態度・実習記録をもとに総合的に評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他	100						
履修上の留意事項	母性看護学に関する基礎知識を身につけて実習に臨むこと。						
課題に対するフィードバックの方法	評価確定後に実習ファイルは返却します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。						
実習方法	詳細は、実習要項およびオリエンテーション資料を参照のこと。						
実習施設	吉田学園くりの木保育園、吉田学園さくら保育園、吉田学園やしの木保育園他						

授業科目	精神看護活動論Ⅰ Psychiatric NursingⅠ			担当教員	原田 由香、高橋 正樹		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	精神疾患に関する病態・治療等の基礎的知識ならびに精神疾患のある人とその家族に対する看護について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障がいをもって生きるということについて理解できる。</li> <li>2. 生物学的モデルとしての脳と精神とのつながり、神経細胞と神経伝達物質について理解できる。</li> <li>3. 主な精神疾患の病態と診断・治療について理解できる。</li> <li>4. 精神疾患の代表的な検査と治療法について理解できる。</li> <li>5. 精神科領域における入院治療と看護の展開について理解できる。</li> <li>6. 精神障がいをもつ人とその家族に対する看護について理解できる。</li> <li>7. 地域で暮らす精神障がいをもつ人の生活を支援する方法や制度について理解できる。</li> </ol>						
関連科目	精神看護学概論、精神看護活動論Ⅱ、精神看護実習						
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰこころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂)2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂)2022						
参考書	* 随時紹介予定						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60点以上を合格とする。 試験：定期試験を実施し、学修到達度で評価する(80%) 提出物：講義時間内に授業内容に関するワークシートを3回課す(20%)				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	20					
その他							
履修上の留意事項	講義終了後、配布資料に基づき復習すること。						
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する						
実務経験を活かした教育内容	精神科病棟・病院にて実務経験のある教員が具体例を交えて、理解しやすいように授業をします。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (原田)	ガイダンス、精神を病む人の状態について	・精神看護学の考え方、その対象、役割について ・精神の病む人の現症と精神症状について			事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)		
2 (原田・高橋)	精神障がいをもって生きるとは	・精神障がいをもつ人の手記からの学びについてグループ内で意見交換することにより、精神を病む人のつらさや周囲の対応について考える。<2教室>			・事前：精神障がいをもつ人の手記を読み、学びや気づきについてまとめる(1時間) ・事後：グループワークと報告会を通しての学びについてまとめる(30分)		
3 (原田)	脳と精神の繋がり(特別講師：医師)	・脳の構造と精神機能 ・神経伝達物質と精神機能			事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)		
4 (高橋)	精神科における代表的な検査、身体療法と看護	・精神科における代表的な検査について ・電気けいれん療法など、身体療法を受ける人の看護について			事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)		
5 (高橋)	薬物療法と看護	・薬物療法とその副作用について ・薬物療法を受ける人の看護			事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)		



回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (原田)	対象を理解するための 考え方：統合失調症 ①	・統合失調症の病態と治療	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
7 (原田)	対象を理解するための 考え方：統合失調症 ②	・統合失調症をもつ人とその家族への支援	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
8 (原田)	対象を理解するための 考え方：気分障がい①	・気分障がいの病態と治療について	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
9 (原田)	対象を理解するための 考え方：気分障がい ②	・気分障がいをもつ人とその家族への支援	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
10 (原田)	対象を理解するための 考え方：精神作用物 質関連障がい	・物質関連障がい（アルコール関連障がい、精神刺激 薬使用障がい、ゲーム障がい）の病態・治療と看護 ・セルフヘルプグループ	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
11 (原田)	対象を理解するための 考え方：行動症候群 （摂食障がい）パーソ ナリティ障がい、性別 違和	・生理的障がいおよび身体要因に関連した行動症候 群（摂食障がい）、 パーソナリティ障がいの病態・治療 ・性別違和の病態・治療と看護	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
12 (原田)	対象を理解するための 考え方：神経性障が い、ストレス関連障が いおよび身体症状症	・神経症性障害の病態・治療と看護 ・ストレス関連障害の病態・治療と看護 ・身体症状症の特徴について	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
13 (原田)	対象を理解するための 考え方：心理的発達の 障がい（CNS）	・発達障がいの病態・治療と看護	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義に関する学びや気づきにつ いてワークシートにまとめ、期限 までに提出する。講義資料の復習・ 教科書の再読をする（1時間）
14 (高橋)	地域での自立、統合へ の支援	・偏見・差別・スティグマ ・精神の健康に関する普及啓発活動 ・多職種によるアウトリーチ（訪問支援）	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
15 (原田)	精神科領域における看 護過程、看護診断	精神科領域で看護過程を展開する際の考え方やアセ スメント、看護問題の特徴について学ぶ。	事前：ゴードンのアセスメントパタ ーンについて復習しておく（20分） 事後：講義資料の復習をする（30分）

授業科目	精神看護活動論Ⅱ Psychiatric Nursing II			担当教員	原田 由香、高橋 正樹		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	精神の病いや問題を抱える対象者への看護援助方法を学ぶ。さらに、自己のコミュニケーション能力を培い、これまでの学習内容を精神看護実習で活用できるよう準備する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護領域における看護過程の概要について理解できる。</li> <li>2. 紙上事例をもとに看護過程（アセスメント、関連図、看護問題の明確化、計画立案、評価）を展開できる。</li> <li>3. ロールプレイを通して、精神看護領域における対象者の理解を深めると共にコミュニケーション能力を培う。</li> <li>4. 精神の健康課題を抱える人の体験談を聞くことにより、精神障がいをもつ人の理解を深める。</li> </ol>						
関連科目	精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護実習						
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰこころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂)2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂)2022						
参考書	田中美恵子編「精神看護学—学生・患者のストーリーで綴る実習展開 第2版」(医歯薬出版)2015						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60点以上を合格とする。 小テスト：講義時間内において授業内容に関するテスト（40%） 提出物：看護過程の展開に関する課題（30%） 体験談に関する1回のワークシート（10%） その他：発表、取り組み姿勢（20%）				
	レポート						
	小テスト	40%					
	提出物	40%					
その他	20%						
履修上の留意事項	看護過程の展開は復習を行い、必ず個人ワークを行った上でグループワークに取り組むこと。さらに、発表などで気づいたことは青のボールペンで追加や修正を行うこと。						
課題に対するフィードバックの方法	提出物には口頭でのフィードバックもしくはコメントを付して返却する。						
実務経験を活かした教育内容	臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神障がいをもつ人への看護援助方法について理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1・2 (原田・高橋)	ガイダンス(目的、目標、評価値)精神看護実践とは 事例を用いての看護過程の展開：①アセスメント、関連図・問題リスト	・精神看護実践の目的について理解する。 ・精神領域において重要となる情報やアセスメント、関連図・問題リストについて理解する。				・事前学習：基礎情報・アセスメント・関連図・問題リスト・看護計画提出（7時間） ・事後学習：講義で気づいた点について追加・修正する（1時間）	
3 (原田・高橋)	事例を用いての看護過程の展開：②看護計画の立案 <GW：2教室>	・グループごとに看護計画立案に向けてGWを行う。				・事前学習：事例の看護計画について確認しておく（30分）。 ・事後学習：グループごとに事例の看護計画を立案する（2時間）。	
4 (原田・高橋)	事例を用いての看護過程の展開：③看護計画 <発表：2教室>	・グループごとに作成した看護計画で代表的なものを発表し、共有する。 ・看護計画のまとめ				・事前学習：グループごとに作成した事例の看護計画を提出する（1時間） ・事後学習：報告会での学びについて看護計画に追加修正する（1時間）	
5・6 (原田・高橋)	事例を用いての看護過程の展開：④実施(ロールプレイ) <2教室>	・グループメンバーでロールプレイを実施する。 ・ロールプレイに関する意見交換(GW)				・事前学習：ロールプレイの内容について準備（1時間） ・事後学習：ロールプレイに関する学びについて整理する（1時間）	
7 (原田)	事例を用いての看護過程の展開：⑤評価	・看護過程、ロールプレイに関する小テスト ・SOAPの書き方に関するまとめ				事前学習：看護過程・ロールプレイでの学びの総復習（2時間） 事後学習：小テストで分からなかったところを確認する（1時間）	
8 (原田)	精神障がいのある人についての理解を深める。	ゲストスピーカーの精神障がい(統合失調症、発達障がい)をもつ人から体験談を聞き、意見交換する				事前学習：精神障がいをもつ人と意見交換できるように質問や意見についてまとめる（1時間） 事後学習：ワークシートの作成と資料に目を通し復習する（1時間）	

授業科目	在宅看護学概論 Introduction to Home Nursing for Home Care			担当教員	安藤 陽子		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	病気や障がいを抱えながら地域で生活することを希望する人々を支える在宅看護の概念、目的、対象と支援方法を理解し、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.在宅療養者と家族が暮らす地域での生活と健康の関係を理解する。</li> <li>2.在宅看護の理念と目的、特徴について、歴史的変遷を踏まえて理解する。</li> <li>3.在宅看護の対象である療養者と家族を理解する。</li> <li>4.地域の多様な場で展開される在宅看護の特徴について理解する。</li> <li>5.在宅で生活する療養者を支える社会保障制度および法制度を理解する。</li> <li>6.在宅看護特有の倫理問題を学び、地域包括ケアにおける在宅看護の役割を理解する。</li> </ol>						
関連科目	1年後期 地域看護学概論、3年後期 在宅看護論ⅠおよびⅡと密接に関連する。						
テキスト	臺有佳他編「ナースング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア」(メディカ出版)						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 第6版」(医学書院)</li> <li>2.渡辺裕子 他「家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第5版」(日本看護協会出版会)</li> </ol>						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート(20点):「地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割」に関する考えを記述する。</li> <li>・定期試験(80点):到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。</li> </ul>				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	「地域において疾病や障がいを抱えながら在宅で暮らし続けている生活者」という視点から療養者と家族を理解し、その生活や人生を支える看護について既習科目と関連付けながら考え続けてください。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、全体にコメントを伝える。						
実務経験を活かした教育内容	地域において多様な健康課題を抱える療養者と家族を対象に看護をした教員が、その経験を活かし教材化した事例を活用しながら授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	地域の人々の暮らしを支える看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.本科目のガイダンス(目的・目標、授業内容、評価方法、履修上の留意点)</li> <li>2.療養者と家族が生活している地域</li> <li>3.地域と生活と健康の関係</li> <li>4.わが国の生活と健康をめぐる動向</li> <li>5.療養者と家族の生活を理解する ICF の考え方</li> </ol>				事前学習)既習内容を踏まえシラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく(1時間)。 事後学習)授業の内容を活かし、自分の住んでいる地域をアセスメントしてみる。地域における生活と自分の健康と生活との関係について整理する(2時間)。	
2	在宅看護の理念と基盤	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.在宅看護の理念と目的</li> <li>2.在宅看護の歴史的変遷</li> <li>3.在宅ケア、在宅看護、訪問看護の関係</li> <li>4.在宅看護の役割・機能</li> </ol>				事前学習)テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間)。 事後学習)授業内容を振り返り、在宅看護について復習する(1時間)。	
3	在宅看護の対象である療養者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.「生活者」としての療養者</li> <li>2.発達段階(ライフサイクル)からみた在宅療養者の特徴</li> <li>3.健康レベルからみた在宅療養者の特徴</li> <li>4.障害からみた在宅療養者の特徴</li> <li>5.療養状態別にみた在宅療養者のアセスメント</li> </ol>				事前学習)テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間)。 事後学習)授業の内容を振り返り、在宅看護の対象である療養者について復習する(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	在宅看護の対象としての家族	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.現代日本の家族の特徴</li> <li>2.家族を理解するための諸理論を活用した家族の理解</li> <li>3.家族アセスメント</li> <li>4.家族を単位とした支援と技術</li> </ol>	<p>事前学習)既習内容を復習する(1時間)。            事後学習)授業の内容を振り返り、授業内で学習した事例を利用し家族を1単位とした支援について復習する(1時間)。</p>
5	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.地域包括ケアシステムづくりのプロセス</li> <li>2.地域のアセスメント</li> <li>3.全世代型地域包括ケアシステムの背景と機能</li> <li>4.医療機関における退院支援と継続看護</li> <li>5.医療機関と各種介護施設との連携</li> </ol>	<p>事前学習)テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間)。            事後学習)授業の内容を振り返り、地域包括ケアシステムにおける看護の機能について復習する(1時間)。</p>
6	地域包括ケアシステムにおける多職種連携とケアマネジメント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携</li> <li>2.地域包括ケアシステムにおけるネットワーク</li> <li>3.地域包括ケアシステムにおける看護の役割・機能</li> <li>4.在宅看護におけるケアマネジメント</li> <li>5.地域包括ケアと地域ケア会議</li> </ol> <p>事後学習；「地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割」についてレポートを提出する(A4用紙1枚 1500字程度)</p>	<p>事前学習)テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間)。            事後学習)授業の内容を振り返り、地域包括ケアシステムにおける看護の機能について復習する(1時間)。</p>
7	在宅療養者と家族を支える社会保障制度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.わが国の社会保障制度とその変遷</li> <li>2.社会保障制度としての各種法律</li> <li>3.さまざまな社会資源</li> <li>4.社会保障制度の課題</li> </ol>	<p>事前学習)テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間)。            事後学習)授業の内容を振り返り、在宅で生活を継続するための社会保障制度の現状と課題について復習する(1時間)。</p>
8	在宅看護と倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.在宅看護特有の倫理問題</li> <li>2.療養者と家族の意思決定とその支援</li> <li>3.権利擁護</li> <li>4.個人情報と保護</li> <li>5.サービス提供者の権利の保証</li> </ol>	<p>事前学習)テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間)。            事後学習)授業の内容を振り返り、在宅看護特有の倫理と療養者と家族の権利について復習する(1時間)。</p>

授業科目	在宅看護論 I Home Care Nursing I			担当教員	安藤 陽子 他		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	病気や障がいを抱えながら住み慣れた地域や自宅で暮らしている療養者と家族の QOL 向上のための在宅療養者に対する看護過程の展開方法を学ぶ。						
到達目標	1.地域療養を支える在宅看護の役割と機能を理解する。 2.在宅看護を展開するための基礎理論について理解する。 3.在宅看護を支える訪問看護について理解する。 4.在宅看護介入時期別の特徴について理解する。 5.在宅療養を支えるコミュニケーション技術について理解する。 6.在宅における看護過程の特徴について理解する。						
関連科目	3年前期 在宅看護学概論 3年後期 在宅看護論II 4年前期 在宅看護実習と密接に関連する。						
テキスト	臺有佳他編「地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア」(メディカ出版)						
参考書	1.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 第6版」(医学書院) 2.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践 第6版」(医学書院) 3.宇都宮宏子他編「看護がつながる在宅療養移行支援」(日本看護協会出版会)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	目標の到達状況を下記の視点から評価し60点以上を合格とする。 1.課題レポート(20点):講義をふまえて「在宅療養を支えるコミュニケーション技術」に関する考えを記述する。 2.定期試験(80点):到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	本科目は、「疾病や障がいを抱え、在宅で暮らしている生活者」の視点でこれまでの履修科目と関連付けながら履修してください。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、全体にコメントを伝える。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	地域療養を支える在宅看護の役割と機能	1.生活・人生の自立・自律支援 2.病状・病態の予測と予防 3.意思決定支援 4.家族の介護力への支援 5.在宅におけるリスクマネジメント 6.地域包括ケアシステム形成と推進 7.災害時のリスクマネジメント				事前学習) テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間程度)。 事後学習) 授業の内容を振り返り、課題を整理する(1時間程度)。	
2	在宅看護を展開するための基礎理論	1.セルフケア理論 2.アドボカシー 3.セルフエフィカシー 4.エンパワメント 5.ストレングス 6.ノーマライゼーション 7.ヘルスプロモーション				事前学習) テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間程度)。 事後学習) 授業の内容を振り返り、課題を整理する(1時間程度)。	
3	在宅療養を支える訪問看護	1.地域包括ケアシステムにおける訪問看護の役割・機能 2.訪問看護の制度 3.訪問看護の提供方法と種類 4.訪問看護ステーションの機能				事前学習) テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間程度)。 事後学習) 授業の内容を振り返り、課題を整理する(1時間程度)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	在宅看護介入時期別の特徴	1.在宅療養準備期 2.在宅療養移行期 3.在宅療養安定期 4.急性増悪期・終末期(看取り期) 5.在宅療養終了期	事前学習) テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間程度)。 事後学習) 授業の内容を振り返り、課題を整理する(1時間程度)。
5	在宅療養を支えるコミュニケーション技術	1.家庭訪問とは、その準備と実際 2.療養者そして家族とのコミュニケーション 3.他職種とのコミュニケーション 4.ICTによるコミュニケーション 事後学習:「在宅看護におけるコミュニケーション技術」にてレポートを提出する(A4用紙1枚 1500字程度)。	事前学習) テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間程度)。 事後学習) 授業の内容を振り返り、課題を整理する(1時間程度)。
6	在宅における看護過程の特徴	1.訪問看護における看護過程の特徴 2.訪問看護過程の実際 3.在宅における平常時のリスクマネジメント 4.在宅看護における災害時のリスクマネジメント	事前学習) テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間程度)。 事後学習) 授業の内容を振り返り、課題を整理する(1時間程度)。
7	在宅看護過程の展開方法①	1.報収集とアセスメント 2.療養上の課題 3.計画立案	事前学習) テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間程度)。 事後学習) 授業の内容を振り返り、課題を整理する(1時間程度)。
8	在宅看護過程の展開方法②	1.実施 2.評価と記録	事前学習) テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく(1時間程度)。 事後学習) 授業の内容を振り返り、課題を整理する(1時間程度)。

授業科目	在宅看護論Ⅱ Home Care Nursing II			担当教員	作並 亜紀子、安藤 陽子、武澤 千尋、小川 克子、川口 桂嗣		
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	在宅看護論Ⅰで学んだ内容をもとに、在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的な視点で捉え、在宅看護を展開する知識・態度・技術を学ぶ。						
到達目標	1.在宅療養者と家族への基本的な生活援助技術を理解する。 2.在宅で行われる医療処置技術について理解する。 3.在宅療養者と家族の特性を踏まえた在宅看護の方法・技術について理解する。 4.在宅療養者と家族の健康状態をアセスメントし、課題を説明する。 5.在宅看護の計画を評価の視点も含めて立案する。 6.在宅療養者と家族を共に支援する他機関や他職種との連携について考えることができる。						
関連科目	3年前期 在宅看護学概論 3年後期 在宅看護論Ⅰ 4年前期 在宅看護実習と密接に関連する。						
テキスト	1.臺有佳他編「ナースング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養支えるケア」(メディカ出版) 2.臺有佳他編「ナースング・グラフィカ 在宅看護論②地域療養支えるケア」(メディカ出版)						
参考書	1.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 第6版」(医学書院) 2.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践 第6版」(医学書院) 3.河野あゆみ編「強みと弱みからみた 在宅看護過程」(医学書院)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点				
	試験	60	目標の到達状況を下記の視点から評価し60点以上を合格とする。 1.看護過程演習(30点)：到達目標で決める提出物によって評価する。 2.課題レポート(10点)：ゲストスピーカーの講義を受けた内容に基づき学びを記述する。 3.定期試験(60点)：到達目標に関する定期試験を実施、学習到達度を評価する。				
	レポート	10					
	小テスト						
	提出物	30					
その他							
履修上の留意事項	在宅看護論Ⅰおよびこれまで学んだ看護技術を復習しておいてください。また、グループワークには積極的に参加し、自己の学びを深めるよう、努力してください。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては全体にコメントを伝える。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (作並)	ガイダンス 対象の特性に応じた看護 ①要介護高齢者の看護	・本科目の学習目的・目標および学習内容与方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト、演習の進め方、課題等を説明する。 ・糖尿病、高血圧症を抱える要介護高齢者とその家族の特性と看護を学ぶ。			事前学習)シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく(1時間) 事後学習)講義内容を復習する(1時間)		
2 (作並)	対象の特性に応じた看護 ②認知症、精神疾患の療養者の看護	認知症、精神疾患の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。			事前学習)テキストを読んでおく(1時間) 事後学習)講義内容を復習する(1時間)		
3 (作並)	対象の特性に応じた看護 ③脳血管疾患、脳神経疾患の療養者の看護	脳血管疾患、パーキンソン病の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。			事前学習)テキストを読んでおく(1時間) 事後学習)講義内容を復習する(1時間)		
4 (作並)	対象の特性に応じた看護 ④在宅酸素療法を必要とする療養者・小児の療養者の看護	COPDの療養者、小児の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。			事前学習)テキストを読んでおく(1時間) 事後学習)講義内容を復習する(1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (作並)	対象の特性に応じた看護 ⑤神経難病の療養者 A の看護	ALS の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前学習) テキストを読んでおく (1 時間) 事後学習) 講義内容を復習する (1 時間)
6 (作並)	対象の特性に応じた看護 ⑥終末期の療養者の看護	終末期の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前学習) テキストを読んでおく (1 時間) 事後学習) 講義内容を復習する (1 時間)
7 - 8 (全担当 教員)	医療管理を要する療養者の看護とリハビリテーション①②	在宅療養者を支える実践者(ゲストスピーカー)から講義を受け、在宅看護技術を学ぶ。 1.在宅における皮膚・排泄ケア(褥瘡創傷ケア、人工肛門、人工膀胱、膀胱留置カテーテル) 2.在宅におけるリハビリテーション	事前学習) テキストを読んでおく (1 時間) 事後学習) 「ゲストスピーカーの講義を受けての学び」についてレポートを提出する(それぞれ A4 1 枚 1500 字程度)。
9 - 12 (全担当 教員)	在宅における看護過程の展開①②③④	グループワーク(4 名~5 名)を実施する 1.学生個々に取り組んだアセスメントを持ち寄り、グループ内で共有し、全体像と対象理解を共有する 2.学生個々に作成した看護計画の内容を共有し、訪問時の看護計画を立案する 3.訪問時の看護計画から一場面を設定したロールプレイを考える	事前学習) 個人で考えた看護過程をメンバーに伝えられるように準備しておく。 事後学習) 演習の内容を深める (1 時間)。
13 - 14 (全担当 教員)	在宅における看護過程の展開⑤⑥	訪問時の看護計画を発表し、ロールプレイを実施する 1.訪問時の看護計画を発表する 2.訪問時の看護計画に沿ってロールプレイを実施する 3.発表とロールプレイを振り返る	事前学習) 発表準備を行う (1 時間) 事後学習) 個人で演習のまとめを行う (1 時間)
15 (全担当 教員)	在宅における看護過程の展開⑦ まとめ	1.在宅における看護過程の展開から学んだことをグループワークで振り返る 2.在宅看護論 II のまとめ	事前学習) 他のグループの発表を踏まえ、自己の学びをまとめる (1 時間) 事後学習) グループワークや発表での学びを活かし、事例に関するアセスメント・関連図・看護計画を追加・修正し、提出する (2 時間)



授業科目	医療安全論 Patient Safety & Disaster Nursing				担当教員	吉田 祐子、福岡 啓子			
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎	○				
授業目的	医療・看護における「安全」の基本的な考え方を理解し、リスクに対する感受性と判断力を磨き、看護の質と医療安全の関連について考える。特に、看護専門職としての責務、医療安全の基本的な考え方、医療安全と看護の質、患者の安全対策、感染防止、事故防止等について理解を深める。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全を学ぶことの意義を理解する。</li> <li>2. 医療安全の重要性と医療安全のためのシステムについて理解する。</li> <li>3. 医療事故に伴う看護職の法的問題について理解する。</li> <li>4. 医療事故のメカニズムを理解する。</li> <li>5. 起こりやすい医療事故とその対策について考察することができる。</li> <li>6. 感染によるリスクと感染防止対策について理解する。</li> </ol>								
関連科目	看護管理論、看護技術総論の感染予防								
テキスト	山内豊明他編集「医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして」(南江堂)								
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 松下由美子他編集「ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」(メディカ出版)</li> <li>2. 川村治子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全」(医学書院)</li> <li>3. 川村治子「医療安全ワークブック(第4版)」(医学書院)</li> <li>4. 小林美亜編集「医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力(改訂第2版)」(学研メディカル秀潤社)</li> <li>5. 河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラーなぜ間違える どう防ぐ」(医学書院)</li> <li>6. 坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策標準予防からサーベイランスまで 改訂第3版」(南江堂)</li> <li>7. 満田年宏「ナースのための院内感染対策 CDC ガイドラインを中心に考える基本と実践一」(照林社)</li> <li>8. 酒井明子 菊池志津子編集「災害看護」(南江堂)</li> <li>9. 黒田裕子 酒井明子監修「新版災害看護一人間の生命と生活を守る」(メディカ出版)</li> <li>10. 小原真理子監修「いのちとこころを救う災害看護」(学習研究社)</li> </ol>								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	80	講義の理解度を評価するための小テストを実施する。小テストの実施方法等は初回講義で説明を行う。目標到達状況を吉田 60%、未定 40%の割合で構成した試験により評価する。 試験 80%、小テスト 20%で総合評価を行う。						
	レポート								
	小テスト	20							
	提出物								
その他									
履修上の留意事項	授業内容の範囲が広いので、テキスト・参考文献で事前・事後学習をしっかりとっておきましょう。								
課題に対するフィードバックの方法	講義の理解度を確保するための問いを設定した小テストのフィードバックを、全体に対して講義の中で行います。								
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した臨床看護に関する実務経験に基づき、現場での事例、医療安全・感染対策、災害看護の取り組みなどを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (吉田)	ガイダンス、医療安全を学ぶ意義と医療安全の動向	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 医療安全にかかわる基本概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療安全を学ぶ意義</li> <li>2) 医療安全に関わる動向</li> <li>3) 医療安全に関する用語の定義</li> <li>4. 医療安全のためのシステムと国や団体の取り組み</li> </ol> </li> <li>4. 医療安全管理と医療(看護)の質の評価</li> </ol>				事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。			
2 (吉田)	医療事故における法的責任	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故に伴う看護職の法的責任</li> <li>2. 看護倫理と医療安全</li> </ol>				事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 (吉田)	医療事故のメカニズム と事故防止	1. 医療事故発生のメカニズム 1) ヒューマンエラー 2) 人間特性 3) 環境 2. 事故分析と事故対策	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。
4 (吉田)	病院組織における 医療安全対策	1. 病院組織における医療安全対策の実際 1) 誤薬 2) 医療機器・医療用具のトラブル 2. チーム医療からみる医療事故とその対策	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。
5 (吉田)	起こりやすい医療事故 の特徴とその対策①	1. 転倒・転落 2. 患者誤認	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し整理する(1時間程度)。
6 (福岡)	感染の基礎知識と 感染予防①	1. 感染に関する基礎的知識 1) 感染とは 2) 医療関連感染について 3) 医療関連感染コントロールが難しくなった背景 2. スタンダードプリコーションと感染経路別予防策 3. 接触感染予防策 4. 飛沫感染予防策 5. 職業感染防止	事前学習：感染免疫学で学んだことを復習してくる。感染防止策としてのスタンダードプリコーションについてノートに整理する(1時間程度)。 事後学習：事前学習に講義内容を追加・修正してまとめる(1時間程度)。
7 (福岡)	感染予防② 感染予防策	1. 処置・ケア時の感染防止 2. 血流感染防止 3. 尿路感染防止 4. 院内感染肺炎防止 5. 手術部位感染防止	事前学習：感染の種類とその要因及びそれぞれの感染防止策について事前に整理する(1時間程度)。 事後学習：事前学習の内容について授業内容を追加・修正し、理解を深める(1時間程度)。
8 (福岡)	感染に関する法的事 項、認定看護師(感染 管理)の役割	1. 感染症法について 1) 歴史的変遷 2) 基本理念、基本方針等 3) 法律の内容 2. 認定看護師(感染管理)の役割と機能 3. 認定看護師が行う感染管理の実際	事前学習：感染症法について参考書を参考にしておよむ(1時間程度)。 事後学習：医療における感染によるリスクとその感染予防策と感染管理における看護師の役割について指定用紙にレポートする(1時間程度)。

授業科目	看護学研究法 Research Methods in Nursing		担当教員	吉田 祐子、木津 由美子、末光 厚夫				
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	○				◎
授業目的	看護学の研究の意義・目的、研究方法、研究論文の書き方、発表等に関する基礎知識を習得し、看護課題研究で活用できることを目的とする。研究を進めるために必要な文献検索の方法や活用方法、研究論文の読み方、研究デザイン、データ収集方法と分析方法について学ぶ。また看護研究における倫理について理解する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学の研究の意義と必要性を理解できる。</li> <li>2. キーワードを用いて文献検索ができる。</li> <li>3. 研究課題にマッチした研究デザインと研究の種類について理解できる。</li> <li>4. 看護研究を進めるにあたって研究者に求められる倫理について理解できる。</li> <li>5. 量的研究・質的研究の種類と進め方を理解できる。</li> <li>6. 看護研究論文をクリティークし、他の学生と討議ができる。</li> <li>7. 論文作成までの過程を述べるができる。</li> </ol>							
関連科目	既習の「表現技法」「統計分析法」と臨地実習を含めた看護全般の科目と関連します。また4年次の「看護課題研究」密接に関連します。							
テキスト	南裕子「看護における研究 第2版」(日本看護協会出版社)							
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 谷津裕子「Start Up 質的看護研究」(学研メディカル秀潤社)</li> <li>2. 横川博英(監) 藤林和俊「看護研究をはじめのための統計と臨床疫学—研究デザインから検定方法の理解に役立つ」(学研メディカル秀潤社)</li> <li>3. 李 節子「看護研究こころえ帳 -- 研究の基本からプレゼンテーションまで」(医歯薬出版)</li> </ol> <p>* 授業時にも参考文献を提示します。</p>							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする。					
	レポート	50	①最終レポート(50点) ・最終レポートが定期試験に該当しますので、提出しなかった場合は評価の対象になりません。					
	小テスト		・最終レポート(50点)として、学修の到達度を評価する。					
	提出物	50	②提出物 (50点) ・課題(文献検索リスト・文献クリティークの成果)などを課し、提出物(50点)として学修の到達度を評価する。					
その他								
履修上の留意事項	4年次の「看護課題研究」につながる科目です。基本をしっかり学んでください。実際に文献を読んだり、文献検索をする方法を演習しますので、その後は自ら図書館で文献検索をしたり、文献を読み、文献収集をする力と文献を読む力をつけていきましょう。提出物の評価点が大きいのので、期限を守って提出してください。							
課題に対するフィードバックの方法	授業内で全体へフィードバックします。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 (吉田)	研究とは何か	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(本科目の目的、目標、内容、評価)</li> <li>2. 研究とは</li> <li>3. 看護研究の意義と目的</li> </ol>					事前: シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく(1時間) 事後: テキストと配付資料を用いて看護研究の意義・目的をノートにまとめる(2時間)。	
2 (吉田)	研究過程の概観 研究デザインと研究方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のプロセス</li> <li>2. 研究デザインと研究方法</li> </ol>					事前: テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後: テキストと配付資料を読み、授業内容をノートに整理する(2時間)。	
3 (吉田)	研究における倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究における倫理原則</li> <li>2. 看護研究における倫理の必要性</li> <li>3. 研究倫理に関わる指針</li> </ol>					事前: テキストの該当ページを読み、不明な用語は調べておく(1時間)。 事後: テキストと配付資料を用いて看護研究倫理的に進めるために必要な視点をノートに整理する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (吉田)	文献検索と文献検討①	1. 文献検討の意義・目的	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
5 (吉田・木津他)	文献検索と文献検討②	1. 文献検索の方法 2. 文献を入手する方法 * 図書館の司書の方の支援を受ける	事前：テキストの該当ページを読み、興味関心のある言葉を考えておく(1時間)。 事後：授業で体験した文献検索を実際に行い、リストを作成し、文献を1つ取り寄せる(2時間)。
6 (末光)	研究と統計	1. 研究に用いられる統計の基本	事前：1年次の統計に関する授業を復習する(1時間)。 事後：配付資料を読み直し、授業内容をノートに整理する(2時間)。
7 (吉田)	量的研究法①	1. 量的研究とは何か 2. 量的研究の特徴と種類	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
8 (吉田)	量的研究法②	1. 量的研究のデータ収集方法	事前：事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
9 (吉田)	量的研究法③	1. 量的研究論文のクリティーク	事前：配付された量的研究論文を読みクリティークする(2時間)。 事後：授業で行ったクリティークを見直しノートに整理する。
10 (吉田) (木津)	演習：看護課題研究発表会聴講	1. 4年次の看護課題研究発表会の聴講	事前：発表会参加のオリエンテーションを受け、聴講の方法を確認する(1時間)。 事後：発表会の学びをノートにまとめる(2時間)。
11 (吉田)	質的研究法①	1. 質的研究とは何か 2. 質的研究の特徴と種類	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
12 (吉田)	質的研究法②	1. 質的研究におけるデータ収集と分析方法	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
13 (吉田)	質的研究法③	1. 質的研究論文のクリティーク	事前：配付された量的研究論文を読みクリティークする(2時間)。 事後：授業で行ったクリティークを見直しノートに整理する。
14 (吉田)	研究成果の発表 看護課題研究テーマ	1. 研究成果の発表方法 2. 研究論文の構成と論文作成時の留意事項 3. 看護課題研究にむけての研究テーマ調査	事前：看護課題研究で取り組みたいテーマを考える(1時間)。 事後：自分の研究テーマを明らかにし、テーマ希望調査表を作成する(2時間)。
15 (吉田)	研究計画書作成	1. 研究計画書作成の意義と構成 2. 研究計画書の作成過程の実際	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。

授業科目	看護管理論 Nursing Management		担当教員	吉田 祐子、他				
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
						○	○	◎
授業目的	看護におけるマネジメントの概念、看護サービスのマネジメントの概念について学び、看護組織を運営していくために必要な考え方を理解する。また、質の高い看護サービスを提供するための看護管理のあり方、多様な看護実践の場における看護マネジメントの実際を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理の概念、看護を取り巻く諸制度について理解する。</li> <li>2. 看護サービスのマネジメントの概念について理解する。</li> <li>3. マネジメントに必要な知識と技術について理解する。</li> <li>4. 多様な看護実践の場における看護マネジメントのあり方について理解する。</li> </ol>							
関連科目	医療安全論							
テキスト	上泉和子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理（第10版）」(医学書院)							
参考書	手島恵・藤本幸三編集「看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル（改訂第2版）」(南江堂)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	定期試験（70%）とレポート（30%）の総合で60%を満たすものを合格とする。 試験は、到達目標の達成を評価する。 レポートは、看護管理を考える上で基本となる概念についての理解度を評価する。					
	レポート	30						
	小テスト							
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	看護管理は、既習の授業すべてに関連があります。これまでの学修を振り返り授業に臨んでください。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてのフィードバックを第8回目の講義で全体に行う。							
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した看護管理に関する実務経験に基づき、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 (吉田)	ガイダンス、 看護管理の概念	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 看護におけるマネジメントの概念と変遷               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) マネジメントとは</li> <li>2) マネジメントプロセス</li> <li>3) マネジメントの変遷</li> </ol> </li> </ol>					事前学習：シラバスを読み、これまでに学んだことからこの授業内容についての疑問点を明らかにしておく。テキストの該当部分を読み、予習する（1時間程度）。 事後学習：授業内容を整理する（1時間程度）。	
2 (吉田)	看護組織論	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織構造・理念と組織図</li> <li>2. 看護組織</li> </ol>					事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する（1時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する（1時間程度）。	
3 (吉田)	看護サービスの マネジメント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サービスとは</li> <li>2. サービスの質</li> <li>3. サービス提供体制</li> </ol>					事前学習：看護サービスのマネジメントについて、テキストの該当部分を読み、予習する（1時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する（1時間程度）。	
4 (吉田)	看護を取り巻く 諸制度、政策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護職と法制度</li> <li>2. 看護職の教育制度</li> <li>3. 医療制度</li> </ol>					事前学習：看護職に関連する法律および医療制度について、これまで学んだ授業科目の内容、テキストの該当部分から整理する（1時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する（1時間程度）。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (未定)	人的資源活用論①	1. モチベーション 2. ストレスマネジメント 3. 労務管理・ワークライフバランス	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する（1時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する（1時間程度）。
6 (未定)	人的資源活用論②	1. 継続教育 2. 目標管理 3. キャリア開発	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する（1時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する（1時間程度）。
7 (未定)	リーダーシップ論	1. リーダーシップとメンバーシップ 2. 看護管理者の役割	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する（1時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する（1時間程度）。
8 (吉田)	まとめ	1. レポート課題へのフィードバック 2. 全体を通した振り返り	事前学習：これまでの学習内容について振り返っておく（1時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する（1時間程度）。

授業科目	地域連携ケア論III Theory of Community-based Care III		担当教員	氏家 志乃、槌本 浩司、澤田 優美、小川 克子			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・3年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	
授業目的	<p>「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに関わる多職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して看護師、管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。</p> <p>そのうち3年時の本科目では、地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱでの内容をもとに、多職種・協働して活動を展開する必要性と、その様なシステムを構築するまでのプロセス、そのプロセスにおける必要な要素について実際の活動例をもとに学修する。その学修を通して、保健医療チームにおける多職種の理解とともに、保健医療におけるチームアプローチの重要性を理解し、自身が目指す職業の専門性、役割について考察する。また、当事者である生活者が地域の課題解決のプロセスに参画することの必要性についても考察する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を解決する支援について理解する。</li> <li>・保健医療福祉チームにおける多職種・機関との連携・協働について理解する。</li> <li>・住民の健康な生活を支える各種法律、制度（介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法等）を理解する。</li> <li>・地域の健康課題を解決していくために必要なパートナーシップについて理解する。</li> <li>・地域で生活する人々が、課題解決のプロセスに主体的に参加する必要性を理解する。</li> </ul>						
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連します。						
テキスト	開講時に提示する。						
参考書	開講時に提示する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40%）を予定している。また、目標の達成状況をレポート（60%）する。詳細は授業の中で説明する。				
	レポート	60					
	小テスト						
	提出物	40					
その他							
履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱと一体の科目として学修すること。各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。						
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。						
実務経験を活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	授業ガイダンス (氏家)	授業ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅱ」の振り返り。生活を支える専門職の専門性と役割は何か。				授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には配布資料を確認し、内容を復習すること。	
2	多職種・機関との連携・協働 (槌本)	保健医療福祉チームにおける各保健医療専門職者、他機関の役割、連携、協働の必要性を理解する。				授業前に前回の学修内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	
3	多職種・機関との連携・協働に参画している専門職者からの講話 (氏家)	外部より実際に多職種・機関との連携・協働に参画している専門職の先生を招き、多職種・機関との連携や協働の実際を講義いただく。				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。	
4	地域ケアを支える各民生委員・民生児童委員からの講話 (小川)	民生委員・民生児童委員の役割と多職種・機関との連携・協働の実際について				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	
5	住民の健康な生活を支える各種法律、制度など (澤田)	介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法などについて理解する。				授業前に前回の学修内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	住民参画とパートナーシップ (小川)	住民が地域の課題解決のために専門職と協働し、専門職が住民とパートナーシップを気づくことの重要性について	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。
7	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについてⅠ (澤田)	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有 (その1)	授業前に前回の授業内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
8	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについてⅡ (槌本)	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有 (その2)	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。



授業科目	公衆衛生看護支援論 I Support Skills for Public Health Nursing	担当教員	川口 桂嗣、武澤 千尋
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	公衆衛生看護活動の対象には地域で生活する個人/家族、地区/小地域、住民組織/地域組織があり、それらが重層的かつ相互作用的な関係にあることを捉え、それぞれの対象への支援方法の特徴を学ぶ。個人/家族に対する支援では、生活と健康を多角的に把握し、健康課題の明確化、支援計画の立案、健康課題解決のための介入方法（健康相談、家庭訪問、健康教育、健康診査・検診）、評価の一連の方法とその特徴を学ぶ。また、対象理解と支援を検討するための事例検討の意義と実施方法を学ぶ。さらに個人/家族、地区/小地域の健康課題を解決するための介入方法（組織との協働、健康教育等）の一連の方法とその特徴を学ぶ。		
到達目標	1.公衆衛生看護の支援の特徴を理解する。 2.個人/家族の生活と健康を多角的に把握し、健康課題の明確化、支援計画の立案、健康課題解決のための介入方法（健康相談、家庭訪問、健康教育）、評価の一連の方法と特徴を理解する。 3.個人/家族の理解と支援を検討するための事例検討会の意義と実施方法を理解する。 4.個人/家族、地区/小地域の健康課題を連動させて捉え、住民が主体的に地区/小地域の健康課題を解決するための一連の介入方法の特徴を理解する。		
関連科目	健康教育論、家族看護学が関連科目である。		
テキスト	中村裕美子他「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 岸恵美子他「保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術」(メヂカルフレンド社)		
参考書	授業中に必要な資料を配付する。また必要時参考書を紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	100	定期試験 (100 点) : 到達目標に関する定期試験 (筆記試験) によって、目標の達成度を評価する。 安藤 : 50 点 小川 : 50 点
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義までに公衆衛生看護学概論、家族看護学、健康教育論のテキストや配布資料等をもとに、授業内容を確認し予習をしましょう。</li> <li>・主体的、積極的に取り組んでください。</li> <li>・授業中や授業終了後に生じた疑問は先延ばしにせず、その都度解決できるような行動を心がけましょう。</li> </ul>		
課題に対するフィードバックの方法	個人/家族への支援方法と組織活動、それぞれの最終授業でポイントを示しながら全体をフィードバックする。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動例を織り交ぜ、公衆衛生看護の支援方法について理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (武澤)	公衆衛生看護における支援の特徴	公衆衛生看護における支援の方法とその特徴 (個人/家族、地区/小地域、組織、地域)	事前 : 授業内容とテキストで予習する (1 時間)。 事後 : 授業中に提示した資料とテキストを基に学修内容を復習する (2 時間)。
2 (武澤)	個人/家族への支援方法 (健康相談)	1.公衆衛生看護における健康相談の概念、目的、対象 2.公衆衛生看護における健康相談の位置づけ、展開方法、特徴、留意点	事前 : 授業内容とテキストで予習する (1 時間)。 事後 : 授業中に提示した資料とテキストを基に学修内容を復習する (2 時間)。
3 (武澤)	個人/家族への支援方法 (健康診査・検診)	公衆衛生看護における健康診査・検診の目的、種類、対象、方法、留意点	事前 : 授業内容とテキストで予習する (1 時間)。 事後 : 授業中に提示した資料とテキストを基に学修内容を復習する (2 時間)。
4 (武澤)	個人/家族への支援方法 (家庭訪問)	公衆衛生看護における家庭訪問の目的、対象、特徴、位置づけ、留意点	事前 : 授業内容とテキストで予習する (1 時間)。 事後 : 授業中に提示した資料とテキストを基に学修内容を復習する (2 時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (武澤)	個人/家族への支援方法 (家庭訪問 個人/家族 のアセスメント)	個人/家族のアセスメントの目的、考え方、特徴	事前：家族看護学で学んだ内容を 復習する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)。
6 (武澤)	個人/家族への支援方法 (家庭訪問 支援計画)	1.継続してアセスメントする意義 2.健康課題に応じた支援方法の選択 3.支援の評価項目、方法、時期	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)。
7 (武澤)	個人/家族への支援方法 (地域におけるフォー マル・インフォーマルな 社会資源)	1.地域におけるフォーマル・インフォーマルな社会資源の機 能、役割 2.健康課題解決のために活用できる社会資源、人材、機関	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)。
8 (武澤)	個人/家族への支援方法 (ケースマネジメント・ 事例検討会)	1.事例検討会の目的、意義、運営方法 2.個別支援から地域の健康問題・課題を考えるための視点	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)。
9 (川口)	個人/家族への支援方法 (集団教育)	1.集団教育の目的、対象、特徴、留意点 2.集団教育の企画・実施。評価	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)。
10 (川口)	個人/家族への支援方法 (グループワーク)	1.グループワークの基本的実践原則 2.グループワークの支援媒体	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)
11 (川口)	個人/家族への支援から 地区/小地域への支援の 連動	活動事例の紹介、グループワーク	事前：10回目までの授業内容を復 習する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)
12 (川口)	組織活動①	1.組織の目的、構造、発展過程、成員の特徴 2.組織の類型 3.組織育成の支援、支援技術	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)
13 (川口)	組織活動②	1.サポートグループ、課題グループの種類と特徴 2.健康増進のためのグループ支援	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)
14 (川口)	地区/小地域への支援 (健康教育)	1.健康教育の目的、対象、特徴、留意点 2.健康教育の企画、実施、評価、改善	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテ キストを基に学修内容を復習する (2時間)
15 (川口)	地域の住民組織/地域組 織への支援と地域づく り	活動事例の紹介、グループワーク	事前：授業内容とテキストで予習 する (1時間)。 事後学習：授業中に提示した資料 とテキストを基に学修内容を復習 する (2時間)

授業科目	公衆衛生看護対象論 I Objectives for Public Health Nursing I	担当教員	武澤 千尋、近藤 明代、川口 桂嗣、渡辺 千鶴
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	親子保健医療福祉活動、成人保健医療福祉活動、高齢者保健医療福祉活動、学校保健活動、産業保健活動における公衆衛生看護活動を法令や制度、社会資源と関連させながら学ぶ。また、それぞれの分野の基本的な活動と共に先駆的な保健医療福祉活動を学び、対象別の公衆衛生看護活動の理解を深める。		
到達目標	1.親子、成人、高齢者における健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度、社会資源と関連させながら理解し、健康への支援を行う公衆衛生看護活動を理解する。 2.学校保健の場の特性と理解し、個人/家族、学校組織を対象とした公衆衛生看護活動を理解する。 3.産業保健の場の特性と理解し、労働者個人/集団、組織を対象とした公衆衛生看護活動を理解する。		
関連科目	履修した全ての科目に関連があります。また、公衆衛生看護対象論Ⅱの関連科目です。		
テキスト	松田正己他「標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動」(医学書院) 村嶋幸代他編「保健学講座 3 公衆衛生看護活動展開論」(メヂカルフレンド社) 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2024/2025」(厚生労働統計協会)		
参考書	授業ガイダンスまたは授業時間に随時紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点  ・定期試験：到達目標移管する定期試験(筆記試験)によって目標の達成度と評価する。(近藤 33 点分、小川 27 点分、未定 20 点分、未定 20 点分)
	試験	100	
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義までに関係法規、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護学概論を復習しましょう。</li> <li>・学修内容が非常に多いので、毎回の授業内容を整理し、復習を行い確実に理解してください。</li> <li>・疑問点は先延ばしにせず、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。</li> </ul>		
課題に対するフィードバックの方法	授業ごとに理解度を確認し、授業最後に全体にフィードバックを行います。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を織り交ぜながら、対象別の公衆衛生看護活動に必要な知識を理解しやすいように授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (近藤)	公衆衛生看護学体系における本科目の位置づけと、地域で生活する人々の特性に則した公衆衛生看護活動の概要	本科目の目的、目標、学修内容と方法、履修上の留意点、学修評価方法について説明する。 ・対象のライフスタイルや疾病、傷害の特性に応じた公衆衛生看護活動 ・場の特性に応じた公衆衛生看護活動	事前：授業内容についてテキストで予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
2 (近藤)	親子保健医療福祉活動 ①	親子保健医療福祉対策の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストで予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
3 (近藤)	親子保健医療福祉活動 ②	妊娠・産褥期の人々の健康への支援	事前：授業内容についてテキストで予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
4 (近藤)	親子保健医療福祉活動 ③	新生児、乳幼児期の人々への健康への支援	事前：授業内容についてテキストで予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
5 (近藤)	親子保健医療福祉活動 ④	支援ニーズの高い健康課題を持つ子どもと親の健康への支援	事前：授業内容についてテキストで予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (小川)	成人保健医療福祉活動 ①	・成人保健医療福祉対策の動向と公衆衛生看護の役割 ・成人期の人々を対象とした健康への支援	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
7 (小川)	成人保健医療福祉活動 ②	・支援ニーズが高い健康課題を持つ成人期の人々への支援	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
8 (未定)	産業保健活動①	産業保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
9 (未定)	産業保健活動②	労働安全衛生管理、主な商業疾病と予防対策	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
10 (未定)	産業保健活動③	所属組織における健康課題と公衆衛生看護活動	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
11 (未定)	学校保健活動①	学校保健の動向	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
12 (未定)	学校保健活動②	学校保健における健康課題への対策	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
13 (未定)	学校保健活動③	学校保健活動	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
14 (小川)	高齢者保健医療福祉活 動①	・高齢者保健医療福祉対策の動向と公衆衛生看護の役割 ・高齢期の人々を対象とした健康への支援	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。
15 (小川)	高齢者保健医療福祉活 動②	・支援ニーズ高い健康課題を持つ成人期の人々への支援	事前：授業内容についてテキスト で予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもと に授業内容を復習する（1時間）。

授業科目	公衆衛生看護対象論 II Objectives for Public Health Nursing II		担当教員	武澤 千尋、 作並 亜紀子			
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
授業目的	障がい者（児）保健医療福祉活動、難病保健医療福祉活動、精神保健医療福祉活動、感染症対策、歯科口腔保健活動における公衆衛生看護活動を法令や制度、社会資源と関連させながら学ぶ。また、それぞれの分野の基本的な活動と共に先駆的な保健医療福祉活動を学び、疾病や障がいの特性に応じた公衆衛生看護活動を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾病や知的面に障がいをもつ人々、難病をもつ人々、精神疾患をもつ人々の健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度、社会資源と関連させながら理解し、支援を行う公衆衛生看護活動を理解する。</li> <li>・ 感染症に罹患している人々をもつ健康課題や感染症の罹患予防を目的に行う保健医療福祉対策を法定や制度、社会資源と関連させながら理解し、支援を行う公衆衛生看護活動を理解する。</li> <li>・ 歯科口腔保健における健康課題を理解し、歯科保健対策における公衆衛生看護活動を理解する。</li> </ul>						
関連科目	履修した全ての科目に関連があります。また、公衆衛生看護対象論Ⅰの関連科目です。						
テキスト	松田正己他「標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動」(医学書院) 村嶋幸代他編「保健学講座 3 公衆衛生看護活動展開論」(メヂカルフレンド社) 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2024/2025」(厚生労働統計協会)						
参考書	授業ガイダンスまたは授業時間に随時紹介する。						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	・ 定期試験 (100 点) : 到達目標移管する定期試験 (筆記試験) によって目標の達成度と評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義までに関係法規、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護学概論を復習しましょう。</li> <li>・ 学修内容が多いので、毎回の授業内容を整理し、復習を行い、確実に理解してください。</li> <li>・ 疑問点は先延ばしにせず、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。</li> </ul>						
課題に対するフィ ードバックの方法	最終講義で全体に対するフィードバックを行う。						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の経験を織り交ぜながら、対象別の公衆衛生看護活動に必要な知識を理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (作並)	障がい者（児）保健医療福祉活動	障がい者（児）保健医療福祉活動の動向と公衆衛生看護の役割				事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。	
2 (作並)	難病保健医療福祉活動 ①	難病保健医療福祉活動の動向と公衆衛生看護の役割				事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。	
3 (作並)	難病保健医療福祉活動 ②	難病をもつ人々の健康への支援				事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。	
4 (武澤)	精神保健医療保険福祉活動①	精神保健医療福祉活動の動向と公衆衛生看護の役割				事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (武澤)	精神保健医療福祉活動 ②	精神の健康への支援ニーズが高い健康課題をもつ人々への支援	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
6 (作並)	感染症対策①	感染症対策の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7 (作並)	感染症対策②	1.感染症に罹患している人々への支援 2.感染症予防に関する支援	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8 (武澤)	歯科口腔保健活動	歯科口腔保健活動の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	公衆衛生看護展開論 Theory of Community-based Care III	担当教員	小川 克子、武澤 千尋、川口 桂嗣
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	地域の人々の健康や QOL の維持向上を目指して行われる公衆衛生看護活動は、地域アセスメントに基づく PDCA サイクルによって進められる。そのため、人々の生活する自治体、地区/小地域のアセスメントの視点と方法の基本を学び、健康課題の明確化とその構造化、優先度の考え方、地域保健事業計画（評価計画）、評価までの一連の流れを理解する。また、コミュニティエンパワメントやソーシャルキャピタルを醸成するため、地域の人々や組織の成員と協働して、健康課題を解決・改善するための支援の考え方を学ぶ。		
到達目標	1.地域アセスメントの目的と地域アセスメントに基づく PDCA サイクルを理解する。 2.対象自治体、地区/小地域を把握するための情報とその収集方法を理解する。 3.対象自治体、地区/小地域の健康課題の明確化と構造化から、優先順位、対策の立案、評価の考え方を理解する。 4.対象自治体、地区/小地域の健康課題について組織・関係職種・住民と協働することの重要性を理解する。		
関連科目	疫学、保健医療福祉行政論、保健統計学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護対象論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、健康政策論Ⅰ・Ⅱ		
テキスト	松田正己他「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」(医学書院) 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド(第2版)」(医歯薬出版株式会社)		
参考書	授業ガイダンスまたは授業時間内で随時紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点  ・定期試験(70点):到達目標に関する定期試験(筆記試験)によって、目標の達成度を評価する。 ・地域アセスメント演習レポート(30点)
	試験	70	
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義までに公衆衛生看護学概論を復習しましょう。</li> <li>・グループ演習は、公衆衛生看護実習の準備につながるものです。積極的に参加しましょう。</li> <li>・疑問点は先延ばしにせず、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。</li> </ul>		
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ごとに理解度を確認し、授業最後に全体にフィードバックを行います。</li> <li>・演習は発表を行い、フィードバックを行います。また、レポートは添削を行い返却します。</li> </ul>		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験談を織り交ぜながら、地域をアセスメントするために必要な知識を理解しやすいように授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (小川)	自治体、地区/小地域を対象とする公衆衛生看護過程	1.公衆衛生看護過程とは 2.公衆衛生看護過程の理論、モデル・ツール 3.地域アセスメント(地域診断)の目的 4.情報収集の方法と分析	事前:授業内容をテキストで予習する(1時間)。 事後:授業中に提示した資料とテキストをもとに学修内容を復習する(2時間)。
2 (全担当教員)	地域アセスメント演習(1)(地域の概要アセスメント①)	1.地域アセスメント演習ガイダンス 2.データの収集・加工を行う	事前:授業内容をテキストで予習する(1時間)。 事後:授業中に提示した資料とテキストをもとに学修内容を復習する(2時間)。
3 (全担当教員)	地域アセスメント演習(2)(地域の概要アセスメント②)	アセスメント項目を定めて地域の概要をアセスメントする。	事前:授業内容をテキストで予習する(1時間)。 事後:授業中に作成したアセスメントを確認し修正を行う(2時間)。
4 (全担当教員)	地域アセスメント演習(3)(地域の概要アセスメント③)	グループメンバーのアセスメントを統合し、地域の概要アセスメントレポートを完成させる。	事前:作成した地域の概要アセスメントの見直し、修正を行う(1時間)。 事後:完成した地域の概要アセスメントの確認を行う(2時間)。
5 (全担当教員)	地域アセスメント演習(4)(地域の人々の特性アセスメント①)	アセスメント項目を定めて地域の人々の特性をアセスメントする。	事前:地域の人々の特性アセスメントの項目を見直し、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う(2時間)。 事後:授業中に作成した地域の人々の特性アセスメントの再確認、修正を行う(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (全担当 教員)	地域アセスメント演習 (5) (地域の人々の特性 アセスメント②)	地域の人々の特性をアセスメントする	事前：作成した地域の人々の特性 アセスメントを見直し、修正を行 う (2 時間)。 事後：授業中に作成した地域 の人々の特性アセスメントの再確 認、修正を行う (2 時間)。
7 (全担当 教員)	地域アセスメント演習 (6) (地域の人々の特性 アセスメント③)	グループメンバーのアセスメントを統合し、アセスメントレポ ートを作成する。	事前：地域の概要アセスメント及 び地域の人々の特性アセスメント を見直す (2 時間)。 事後：作成したアセスメントレポ ートを見直し、発表練習を行う (2 時間)。
8 (全担当 教員)	地域アセスメント演習 (7) (発表とグループデ ィスカッション)	発表とディスカッションを行う。演習を通しての学び、疑問点 を整理する。	事前：発表準備、練習を行う (1 時 間)。 事後：発表での意見交換からアセ スメント内容を見直す (2 時間)。
9 (全担当 教員)	地域アセスメント演習 (8) (サブシステムアセ スメント①)	アセスメント項目を定めてサブシステムをアセスメントする。	事前学サブシステムアセスメント 項目について、各データが示す内 容について復習し、各自データ取 集を行う (2 時間)。 事後：授業中に作成したサブシ ステムアセスメントの差確認、修 正を行う (2 時間)。
10 (全担当 教員)	地域アセスメント演習 (9) (サブシステムアセ スメント②)	グループメンバーのアセスメントを統合し、サブシステムのア セスメントレポートを作成する。	事前：作成したサブシステムアセ スメントを見直し、修正を行う (2 時間)。 事後：授業中に作成したサブシ ステムアセスメントの再確認、修 正を行う (2 時間)。
11 (全担当 教員)	地域アセスメント演習 (10) (健康水準アセスマ ント①)	アセスメント項目を定めて人々の健康水準をアセスメントす る。	事前：人々の健康水準アセスマ ントに向けて、各項目のデータが示 す内容について復習し、各自デー タ収集を行う (2 時間)。 事後：授業中に作成した人々の健 康水準アセスメントの再確認、修 正を行う (2 時間)。
12 (全担当 教員)	地域アセスメント演習 (11) (健康水準アセスマ ント②)	グループメンバーのアセスメントを統合し、健康水準のアセスマ ントレポートを作成する。	事前：作成した健康水準アセスマ ントを見直し、修正を行う (2 時 間)。 事後：授業中に作成した健康水準 アセスメントの再確認、修正を行 う (2 時間)。
13 (全担当 教員)	健康課題の明確化と構 造化・優先順位	1.人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の特定 2.健康課題の種類、表現の原則、健康課題の構造化 3.健康課題の優先順位	事前：保健師の活動計画、地域保健 情報年報から地域の状況を把握す る (2 時間)。 事後：授業で使用したプリントや 授業で紹介した文献を参照し、全 体を構造化/体系化してとらえる (2 時間)。
14 (全担当 教員)	地域アセスメント演習 (12) (健康課題の抽出)	グループメンバーのアセスメントから健康課題を抽出する。	事前：実施したアセスメントを見 直し、健康課題を検討する (1 時 間)。 事後：グループで考えた健康課題 を整理し見直す (2 時間)。
15 (小川)	対策の立案・評価の考え 方	健康課題解決の方法 (対策立案と評価方法)	事前：授業内容をテキストで予習 する (1 時間)。 事後：講義内容を踏まえ検討した 健康課題の対策と評価方法につい て検討する (2 時間)。



授業科目	公衆衛生看護管理論 Management of Public Health Nursing	担当教員	近藤 明代、武澤 千尋
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	地域で生活する人々の安全や健康を守るためには、保健師活動および地域や組織で行われる活動のケアの質が問われる。本科目では保健師活動や地域、組織のケアの質保証とは何かを捉えたうえで、そのための公衆衛生看護管理の基本として、公衆衛生看護管理の目的を確認し、その内容（業務管理、情報管理、予算管理、人事管理、人材育成、組織運営管理）を学ぶ。また、地域における健康危機管理の実態と公衆衛生看護管理の視点から、健康喫管理の重要性と内容（災害、感染症）を学ぶ。		
到達目標	1.公衆衛生看護管理の意義、目的、機能について理解する。 2.公衆衛生看護管理の方法について理解する。 3.地域における健康危機管理（災害、感染症）について理解する。		
関連科目	2年次後期からの公衆衛生看護学に関する講義すべて		
テキスト	標美奈子他「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」（医学書院） 村嶋幸代他「保健学講座 公衆衛生看護学概論」（メヂカルフレンド社）		
参考書	必要に応じ講義資料を配付し、参考書を紹介します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 ・定期試験（90点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の到達度を評価する。 ・レポート（10点）：健康危機管理（災害）の演習実施後の学びに関するレポートにて評価する。 安藤：50点 近藤：50点
	試験	90	
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物 その他		
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容について事前にテキストを確認し予習しましょう。</li> <li>・主体的、積極的に取り組み様にしてください。</li> <li>・授業中や授業終了後に生じた疑問は先延ばしにせずに、その都度解決できるような行動を心がけましょう。</li> </ul>		
課題に対するフィードバックの方法	・最終授業において、科目全体の学習内容をフィードバックする。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の経験を織り交ぜながら、新任期から管理期における公衆衛生看護管理について授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (近藤)	公衆衛生看護管理の概念	1.本科目の目的、目標、学習内容、履修上の留意点、評価 2.公衆衛生看護管理の目的、機能	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
2 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 1-地域ケアの質保証-	1.地域の社会資源の把握 2.地域の特性を活かした社会資源開発と施策化 3.保健医療福祉計画の策定	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
3-4 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 2-組織運営・管理、業務管理-	1.組織の目的、各部署の役割 2.他部門との連携、協働、情報の共有	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
5-6 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 3-人材育成-	1.保健師教育制度の変遷 2.現任教育の目的と方法 3.人材育成計画	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
7-8 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 4-人事管理-	1.ジョブローテーション 2.労務管理 3.人事評価	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後学習：授業中に提示した資料とテトをもとに復習する（2時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9 (武澤)	公衆衛生看護管理の諸相 5-予算管理-	1.保健事業と人材育成の予算編成 2.予算の執行管理、評価	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
10 (武澤)	公衆衛生管理の諸相 6-情報管理-	1.健康関連情報の収集 2.情報管理の方法 3.情報公開 4.個人情報の保護	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
11 (武澤)	公衆衛生看護管理の諸相 7-健康危機管理	1.地域における健康危機管理 2.健康危機管理における保健師の機能、役割	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
12 (武澤)	公衆衛生看護管理の諸相 7-健康危機管理（感染症）	1.感染症対策の活動理念と変遷 2.感染症対策の法制度、組織、システム 3.保健所、市町村における感染症対策と保健師の役割 4.主な感染症、集団発生及び拡大予防策、集団発生時の調査方法や保健所・都道府県・国の対応	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
13 (武澤)	公衆衛生看護管理の諸相 7-健康危機管理（災害）①-	1.災害の種類、災害発生に備えた広域的な支援制度やシステム 2.フェーズ毎の地域に生じる健康課題、生活課題 3.災害発生時の都道府県及び市町村保健師の役割	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2時間）。
14-15 (武澤)	公衆衛生看護管理の諸相 7-健康危機管理（災害）②③（演習）-	1.地域による災害発生リスク 2.災害各期における要援護者の健康課題と支援策についてグループで検討する。	事前：災害各期における保健師の支援について復習する（1時間）。 事後：健康危機管理（災害）の際の保健師活動をレポートにして提出する（2時間）。